資料４

赤字・赤枠部分は、第９回部会以降の主な修正箇所

以下の点から修正

・第９回専門部会からの意見・・・・・（部会）

・関係機関・庁内への照会の意見・・・（照会）

・事務局の修正・・・・・・・・・・・・（事務局）

長野市都市計画マスタープラン（素案）

第２編・第３編

令和８年７月30日（木）

第10回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会

長野市都市計画マスタープラン

目　　次

序　はじめに

第１章　改定にあたって

1　都市計画マスタープランとは

2　改定の背景

3　計画範囲と目標年次

4　立地適正化計画とは

第２章　長野市の概要

1　位置・地勢

2　市の沿革

3　都市計画の沿革

第１編　全体構想

第１章　都市の特徴

1　都市の特徴

2　今後のまちづくりに向けて認識すべき課題

第２章　都市づくりの理念・目標

1　都市づくりの理念

2　都市づくりの目標

第３章　目指す都市構造

1　都市構造の形成方針

2　目指す都市構造

第４章　土地利用の方針

1　土地利用の基本方針

2　土地利用区分ごとの方針

第５章　分野別の方針

1　交通体系の方針

2　自然環境保全とまちなかの緑の方針

3　景観づくりの方針

4　都市防災の方針

5　経済活動等に関する方針

6　脱炭素や省エネルギーの方針

第２編　地域別構想 80
第１章　地域別構想の内容 81
1　地域別構想の構成 81
2　地域ごとの概要 83
3　地域ごとの土地利用現況 85
第２章　地域別構想 87
1　長野駅・善光寺周辺地域 87
2　芹田・安茂里地域 93
3　東部地域 99
4　北部地域 105
5　浅川・若槻地域 111
6　千曲川沿川地域 117
7　川中島・更北地域 123
8　篠ノ井地域 129
9　松代・若穂地域 135
10　北西部中山間地域 141

第３編　都市計画マスタープランの実現に向けて 148
第１章　実現化方策 149
第２章　実現化に向けた考え方 155
1　効果的な施策の展開 155
2　計画の進行管理と見直し 157

用語の解説 .....

第２編
地域別構想

第１章　地域別構想の内容
第２章　地域別構想

第１章　地域別構想の内容

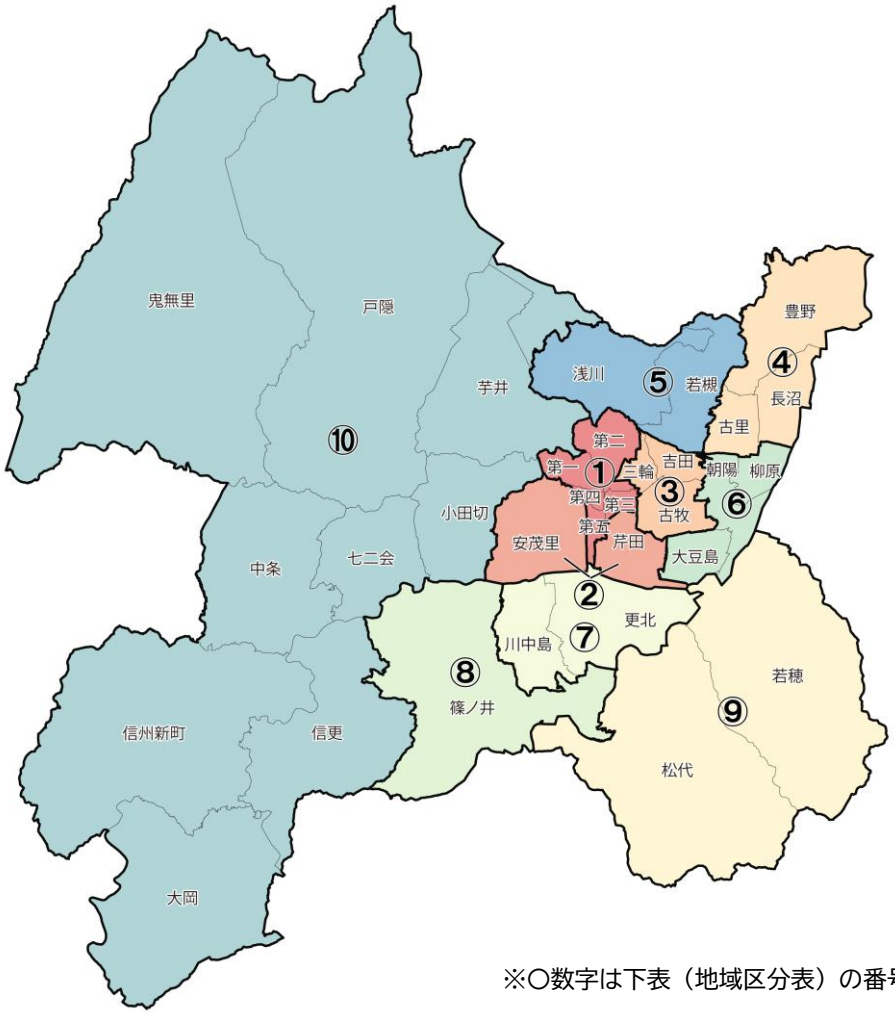
１　地域別構想の構成

１－１　地域区分の考え方

地域区分については、これまでの都市計画マスタープランの地域区分を考慮しつつ、次の考え方に基づき、市内を10地域に設定します。

・行政区分（32地区）を基本の単位とし、歴史的な地域の形成過程や経緯を考慮
・都市構造（拠点や軸など）土地利用（区域区分）を考慮
・地形を考慮

■　地域区分図



※○数字は下表（地域区分表）の番号

■　地域区分表

地域区分	内訳（地区名）	地域区分	内訳（地区名）
①長野駅・善光寺周辺地域	第一　第二　第三 第四　第五	⑦川中島・更北地域	川中島　更北
		⑧篠ノ井地域	篠ノ井
②芹田・安茂里地域	芹田　安茂里	⑨松代・若穂地域	松代　若穂
③東部地域	三輪　吉田　古牧	⑩北西部中山間地域	浅川の一部　小田切 芋井　七二会　信更 戸隠　鬼無里　大岡 信州新町　中条
④北部地域	豊野　長沼　古里		
⑤若槻・浅川地域	若槻　浅川		
⑥千曲川沿川地域	柳原　朝陽　大豆島		

１－２　地域別構想の構成

地域別構想は、10地域ごとに次に示す内容を記載するものとします。

１　地域の特性

(1)地勢と成り立ち

次の視点から、地域の特性を整理します。

・位置・地形・標高などの地理的特性

・歴史的な成り立ちや合併の経緯

・主な地域資源

(2)人口動態

地域の人口や世帯数の推移・将来推計、年齢別３区分ごとの人口構成比を整理します。

(3)地域の都市構造

①拠点、軸、ゾーン

全体構想で示した都市構造（拠点、軸、ゾーン）の観点から地域の位置づけを整理します。

②都市施設・交通

地域の主要な都市施設、交通施設などの配置状況を整理します。

２　地域の課題

(1)分野別の主な課題

全体構想で示した土地利用や分野別の方針に応じて、主な課題を整理します。

・土地利用・・・・・・・・・第１編　全体構想　第４章　土地利用の方針に対応

・交通体系・経済活動・・・都市づくりの目標２に対応

・自然環境・緑・景観・・・都市づくりの目標１に対応

・防災・脱炭素・・・・・・都市づくりの目標３に対応

(2)市民の意向

市民アンケートの結果から、課題を抽出します。

３　地域の目指す姿

(1)地域のまちづくりの基本方針

地域のまちづくりの基本方針を示します。

(2)都市づくりの目標別の方向性

全体構想で掲げた都市づくりの目標１～３に基づき、地域の目標を示します。

４　分野別の整備方針

全体構想で示した土地利用や分野別の方針に応じて、整備方針を整理します。

・土地利用の方針

・交通体系・経済活動の方針

・自然環境・緑・景観の方針

・防災・脱炭素の方針

2　地域ごとの概要

地域別構想の10地域それぞれについて、地域の概要を整理します。

地域区分	①　特徴　②課題　③目指す姿	写真
1 長野駅・善光寺周辺地域	①善光寺の門前町として発展、明治時代には長野駅が開業して県都の玄関口として商業・業務機能が集積 ②低未利用地の増加と都市機能の空洞化 ③広域都市拠点としての機能強化・魅力向上と、善光寺表参道のウォーカブルなまちづくりの推進	
2 芹田・安茂里地域	①安茂里地区は北国街道沿いの集落として発展、芹田地区は長野駅周辺の市街地拡大に伴い住宅地化 ②公共交通の不足、市街地内における緑の不足 ③安茂里駅周辺の生活拠点機能の強化、駅を中心としたにぎわいと利便性の高い生活圏の形成	
3 東部地域	①北国街道や善光寺門前町に近接する地域として発展し、鉄道整備や市街地拡大に伴い住宅地化 ②古くからの市街地における防災、交通機能の低下 ③北長野駅・信濃吉田駅周辺の拠点機能の強化によるにぎわいと回遊性のある都市拠点の形成	
4 北部地域	①千曲川の水運と街道の陸運が交わる交通の要衝として発展、豊野駅が開業し市街地が形成 ②農業従事者の高齢化等による農業の衰退、駅周辺の商業機能の低下 ③安全で安心して暮らせる地域基盤の構築と、豊かな自然環境・歴史を活かした地域づくり	
5 若槻・浅川地域	①果樹栽培が盛んな農業地域として発展し、その後長野市中心部へのアクセス性の高さから住宅地化 ②鉄道駅が地域内に存在しないことによる公共交通アクセスの制約 ③主要幹線道路沿道を中心とした商業・生活サービス機能の集積、生活拠点としての利便性向上	

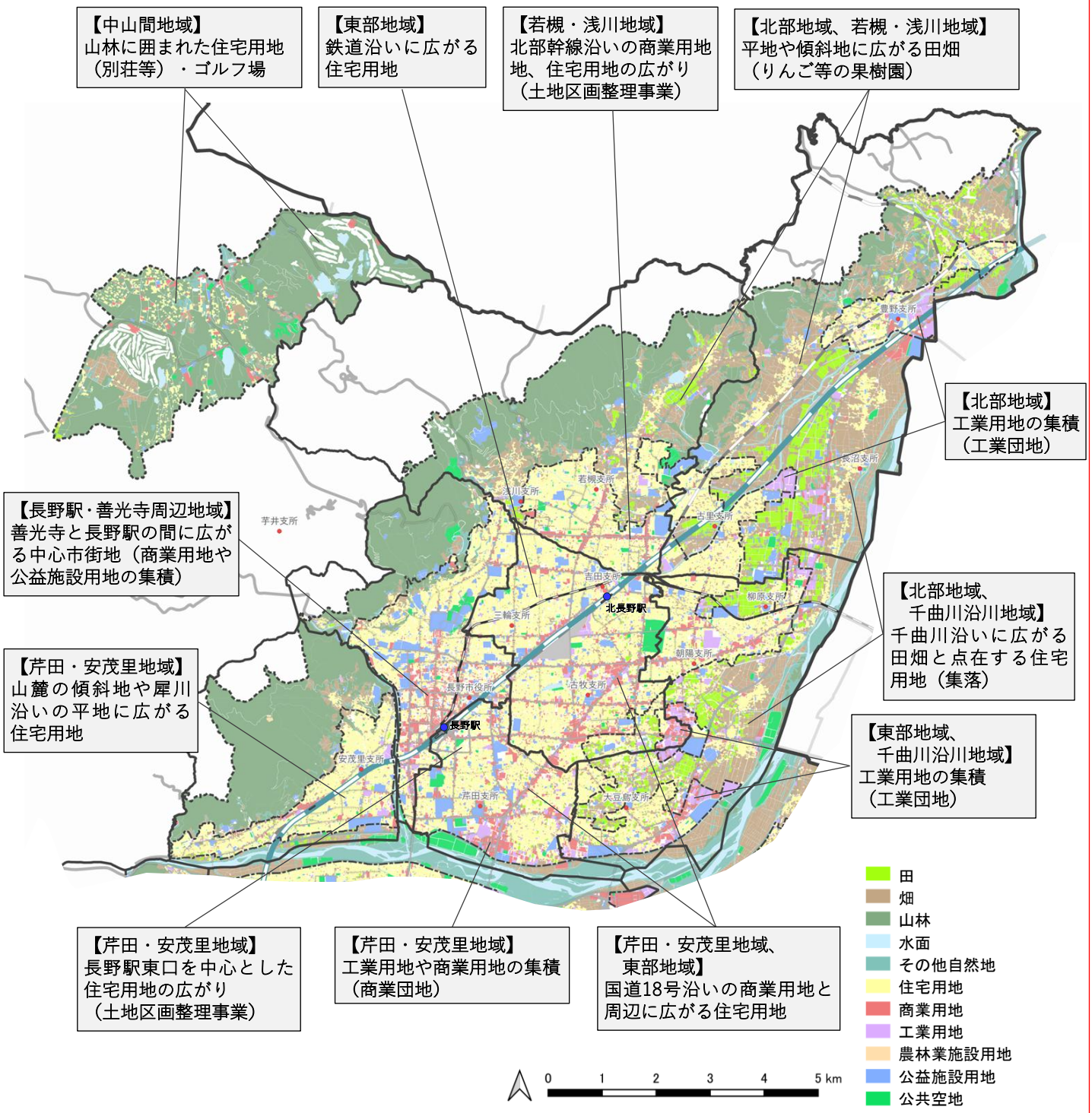
地域区分	①　特徴　②課題　③目指す姿	写真
６千曲川 沿川地域	①古くは善光寺平の農業生産を支える地域として栄え、現在は住宅や工業・流通施設が立地する市街地を形成 ②農業従事者の高齢化等による農業の衰退、千曲川の浸水リスク ③水害に強い安全・安心な地域づくりと、豊かな水と緑の田園環境の保全と活用	
７川中島・ 更北地域	①古くから交通の要衝・農業の盛んな地域として発展し、現在は幹線道路沿いに商業・業務施設が集積 ②農業従事者の高齢化等による農業の衰退、農地の宅地化の進行 ③駅周辺及び幹線道路沿いの活性化と公共交通の利便性向上を図り、持続可能な都市構造の形成	
８篠ノ井地域	①古くから交通の要衝として発展し、駅を中心とした市街地と周辺農地、西側の中山間地からなる地域 ②駅周辺の商業機能の低下、農地・田園景観の保全の必要性 ③駅周辺への都市機能の集積とにぎわいの創出、駅へのアクセス性の向上	
９松代・ 若穂地域	①交通・文化の要衝として発展し、真田十万石の城下町として栄えた歴史文化資源が集積する地域 ②歴史的市街地内の人口の減少、鉄道がない公共交通利便性の低さ ③二次交通の最適化や歴史的景観の保全による観光交流機能の強化と地域のにぎわい創出	（照会）
10北西部 中山間地域	①戸隠神社の門前町や交易拠点、各地域の地形・気候を活かした農林業などで地域を形成 ②居住人口減少による地域コミュニティの維持、公共交通の路線維持 ③各拠点における生活サービスの確保と生活環境の維持、歴史や自然の資源を活かした地域の活性化	（照会）

（部会）

3　地域ごとの土地利用現況

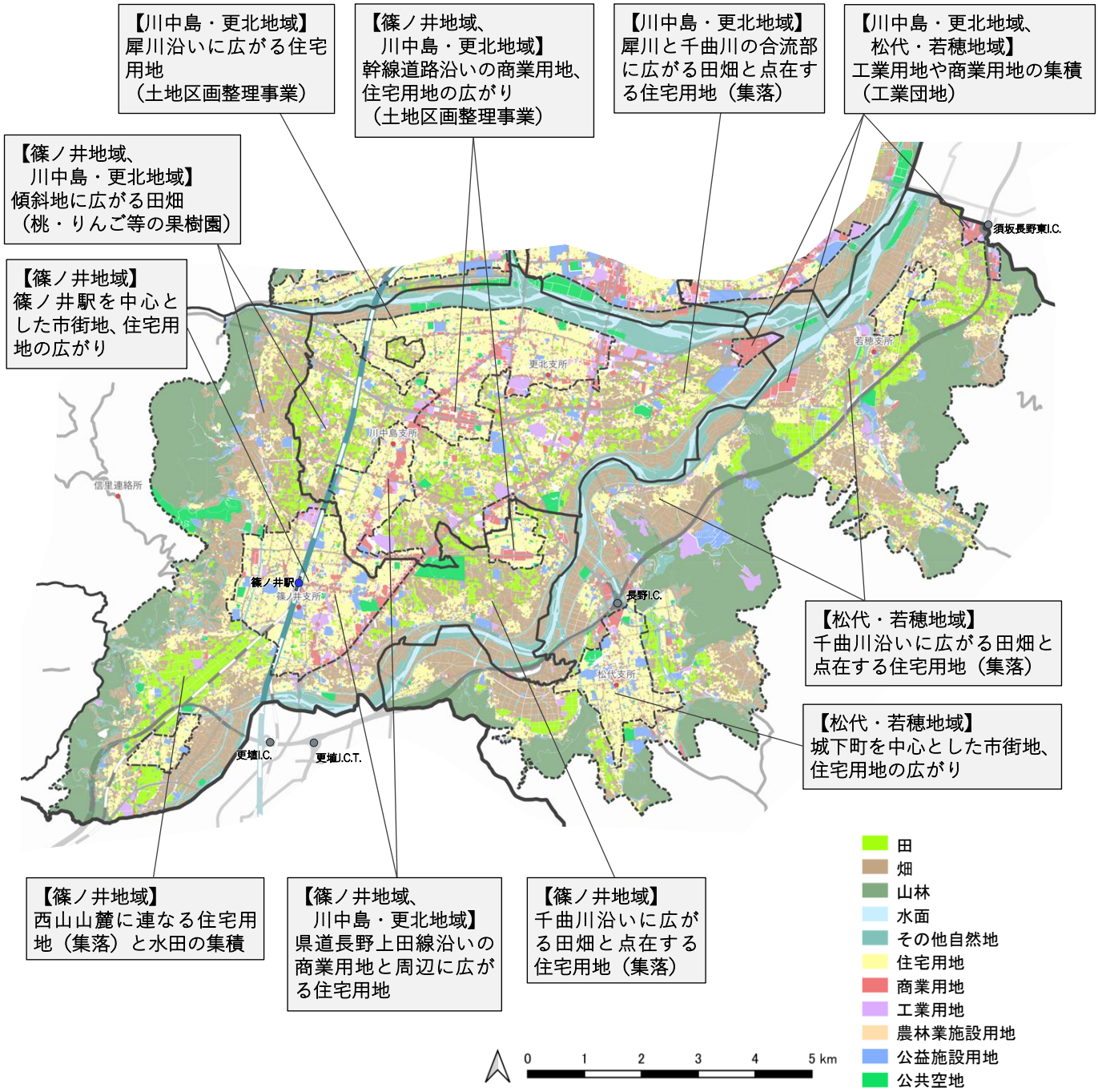
都市計画区域内における土地利用の現況を示します。市街化区域と市街化調整区域それぞれの土地利用の状況や、農地・緑地・住宅地・商業地等の分布を整理し、地域ごとの課題把握や整備方針の立案のための基礎情報とします。

【犀川より北の地域】



（部会）

【犀川より南の地域】

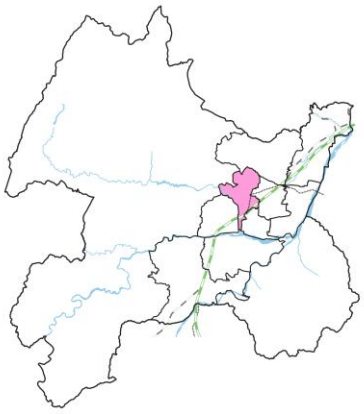

【川中島・更北地域】
犀川沿いに広がる住宅用地
（土地区画整理事業）
【篠ノ井地域、
川中島・更北地域】
幹線道路沿いの商業用地、住宅用地の広がり
（土地区画整理事業）
【川中島・更北地域】
犀川と千曲川の合流部に広がる田畑と点在する住宅用地（集落）
【川中島・更北地域、
松代・若穂地域】
工業用地や商業用地の集積
（工業団地）
【篠ノ井地域、
川中島・更北地域】
傾斜地に広がる田畑
（桃・りんご等の果樹園）
【篠ノ井地域】
篠ノ井駅を中心とした市街地、住宅用地の広がり
【松代・若穂地域】
千曲川沿いに広がる田畑と点在する住宅用地（集落）
【松代・若穂地域】
城下町を中心とした市街地、住宅用地の広がり
【篠ノ井地域】
西山山麓に連なる住宅用地（集落）と水田の集積
【篠ノ井地域、
川中島・更北地域】
県道長野上田線沿いの商業用地と周辺に広がる住宅用地
【篠ノ井地域】
千曲川沿いに広がる田畑と点在する住宅用地（集落）
須坂長野東I.C.
更北支所
若穂支所
川中島支所
信里連絡所
篠ノ井駅
篠ノ井支所
長野I.C.
松代支所
更埴I.C.
更埴J.C.T.
田
畑
山林
水面
その他自然地
住宅用地
商業用地
工業用地
農林業施設用地
公益施設用地
公共空地
0
1
2
3
4
5 km

第２章　地域別構想

１　長野駅・善光寺周辺地域

１－１　地域の特性

■　長野駅・善光寺周辺地域の位置図



(1)地勢と成り立ち

長野駅・善光寺周辺地域は、長野市の中心市街地に位置し、市全体の都市機能と歴史文化を象徴する地域です。北西側には善光寺平を望む丘陵地、南東側には裾花川や千曲川へとつながる平坦地が広がっています。

古くから善光寺の門前町として発展してきた地域であり、642年の善光寺の創建から始まり、江戸時代には北国街道の宿場町として栄え、善光寺詣での参詣者で賑わいました。明治時代には信越本線長野駅が開業し、県都の玄関口として商業・業務機能が集積しました。1997年（平成９年）には北陸新幹線が開業するなど、北陸・関東を結ぶ交通の要衝となりました。

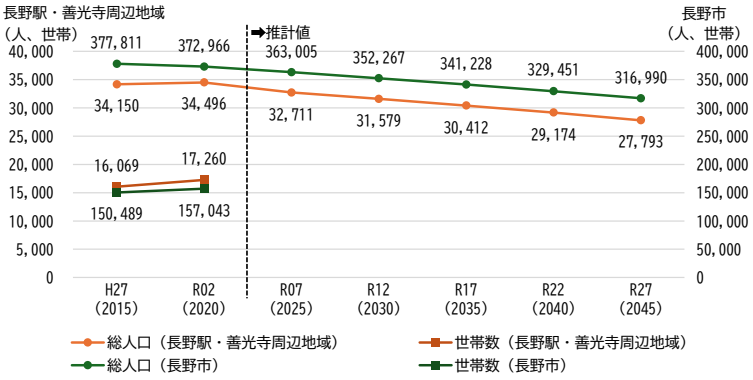
現在は、長野駅を中心とした市街地が、長野市全体の中心拠点としての役割を担っています。主な地域資源として、地附山や大峰山、裾花川などの自然資源、善光寺をはじめとする門前町の歴史資源、城山公園や地附山公園などの公園施設、長野医療生協長野中央病院等の医療施設、信州大学教育学部をはじめ小学校８校・中学校２校・高等学校４校等の教育施設があります。

(2)人口動態

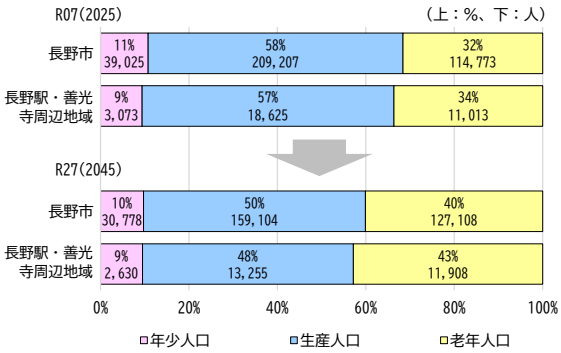
本地域の人口（2020年）は約34,500人で、長野市全体の約９％を占めています。2005年以降、人口は漸減傾向にあり、将来推計では2035年には約30,400人となり、2020年と比較して約12％減少すると見込まれています。

年齢３区分別では、年少人口（0～14歳）は９％、生産年齢人口（15～64歳）は57％、老年人口（65歳以上）は34％となっており、少子高齢化が進行しています。また、中心拠点でありながら、市全体と比較すると、やや急速なペースで高齢化率の上昇が見込まれます。

■　長野駅・善光寺周辺地域の人口と世帯数の推移



■　長野駅・善光寺周辺地域の年齢別人口



※実績値は国勢調査、推計値は国土数値情報250mメッシュ別将来推計人口データを基に算出

(3)地域の都市構造

①拠点、軸、ゾーン

本地域の都市構造は、長野駅周辺を広域都市拠点とし、行政・商業・業務施設が高度に集積し、長野駅善光寺口（西口）を中心に商業地が広がっています。善光寺は歴史文化観光地エリアとして、国内外から多くの参詣者・観光客が訪れています。

長野駅から善光寺方面を望む

広域連携軸はJR・しなの鉄道・長野電鉄と国道19号があり、北陸新幹線も通るなど広域へのアクセス性に優れています。都市間連携軸は、鉄道のほか、国道406号や国道117号が担っています。また、中山間地への地域間連携軸として、国道406号や県道戸隠高原浅川線などがあります。

土地利用の観点では、長野駅周辺から善光寺にかけて市街地ゾーンが形成され、西側の丘陵地には田園居住ゾーンが広がり、さらにその奥には中山間ゾーンが広がっており、本地域はこれら３区分からなる空間構造を形成しています。

②都市施設・交通

本地域の主な都市施設は、長野駅を中心とした市街地に集積しており、行政拠点である「長野市役所」「長野県庁」をはじめ、「市立長野図書館」や「長野医療生協長野中央病院」が立地しています。また、善光寺・城山公園一帯は美術館や動物園などもあり、観光や文化活動の拠点として多くの市民や来訪者が利用しています。

城山公園

市街地北西部には、善光寺が立地し、年間600万人以上が参拝に訪れる歴史文化・観光資源の核となっています。善光寺周辺には仲見世通りや門前町の街並みが形成され、観光・商業の拠点となっています。

交通面では、長野駅（JR・しなの鉄道・長野電鉄）及び権堂駅（長野電鉄）などが立地し、長野駅の1日平均乗車人員は新幹線・在来線合わせて約3万人となっています。長野駅の高い交通結節機能を活かし、周辺自治体の観光地へアクセスするハブ機能を担っています。また、長野駅から善光寺へとつながる善光寺表参道を中心に、インバウンドを含む来街者の徒歩やバスによる移動利便性が高い地域となっています。　（照会）

１－２　地域の課題

(1)分野別の主な課題

土地利用

(照会)　・中心市街地における低未利用地の有効活用と都市機能の集積

・善光寺門前町の歴史的街並みの保全と活用

・無秩序な駐車場等の立地抑制と計画的な土地利用の誘導

交通体系・経済活動

(照会)　・主要幹線道路（国道19号、北長野通り等）の慢性的な渋滞の解消

(照会)　・善光寺をはじめとした主要観光施設へのアクセス性向上と、中心市街地における回遊性・滞在性の確保

・公共交通ネットワークの充実と利便性向上

自然環境・緑・景観

・裾花川の水辺空間における生物多様性の保全と親水性の向上

・中心市街地の身近な公園の不足と緑の連続性の確保

・善光寺を中心とした歴史的景観の保全と門前町の街並み保全

防災・脱炭素

・裾花川沿いの河川災害への備えと浸水対策

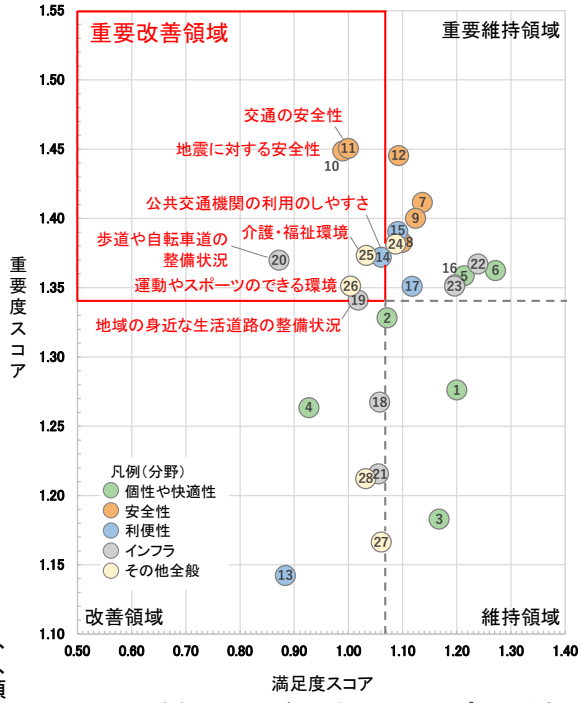
・密集市街地における防災性の向上と避難路の確保

(照会)　・中心市街地における歩行者・自転車優先の交通環境の充足

(2)市民の意向

長野駅・善光寺周辺地域では、「交通の安全性」「地震に対する安全性」「歩道や自転車道の整備状況」などについて、重要度が高い一方で満足度が低い傾向がみられます。また、「公共交通機関の利用のしやすさ」「介護・福祉環境」「運動やスポーツのできる環境」「地域の身近な生活道路の整備状況」についても改善の必要性が高い傾向がみられ、安全性や公共交通、歩行環境の向上に対するニーズが高い地域となっています。

■　アンケートにみる住民の認識・意向



（資料：長野市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査（令和７年））

※28項目について満足度・重要度（５段階評価）の回答を点数化し、市全体平均を基準線として４領域に区分。「重要改善領域」は、重要度が高く満足度が低い領域で、より改善の必要性が高い項目として位置づけられる。

１－３　地域の目指す姿

(1)地域のまちづくりの基本方針

長野駅･善光寺周辺地域は、県都の玄関口として高次の都市機能が集積する広域都市拠点で、1,400年の歴史をもつ善光寺門前町の風情が息づく長野市の顔として、以下の方針でまちづくりを進めます。

●広域都市拠点としての機能強化と魅力の向上

長野駅を中心とした中心市街地における土地の高度利用と計画的な都市機能の更新を進めることで、よりにぎわいと活力のある広域都市拠点を目指します。

●安全で快適な移動環境の実現

主要幹線道路の慢性的な渋滞対策と公共交通ネットワークの充実を進めるとともに、歩行者・自転車優先の交通環境整備により、安全で快適に移動できる都市空間を創出します。

●善光寺を核とした歴史文化の継承と観光振興

善光寺と門前町の歴史的街並みを保全・活用し、国内外から訪れる参拝者・観光客を惹きつける魅力ある歴史文化観光地を形成します。

(2)都市づくりの目標別の方向性

目標１　豊かな自然と歴史文化を大切にする地域づくり

・善光寺を中心とした歴史的景観の保全と門前町の街並み保全・活用
・城山公園や地附山公園等の緑の拠点の機能強化と活用促進
・市街地内における緑の連続性の確保と水と緑のネットワーク形成
・裾花川の水辺空間における生物多様性の保全と親水性の向上

目標２　暮らしやすい生活基盤と経済活動を支える地域づくり

・長野駅周辺への都市機能の集積と土地の高度利用によるにぎわいの創出
・空き家・空き店舗・低未利用地の活用促進と無秩序な駐車場立地の抑制
・主要幹線道路（国道19号、善光寺表参道等）の渋滞対策と交通円滑化
・長野駅から善光寺への回遊性の向上と公共交通の利便性向上
・歩行者・自転車の安全で快適な移動環境の整備と歩道・自転車道の充実

目標３　誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

・密集市街地における防災性の向上と避難路の確保、建築物や公共施設の耐震化
・中心市街地におけるヒートアイランド対策、脱炭素社会への対応と環境負荷の低減
・裾花川沿いの河川災害への備えと浸水対策の推進

１－４　分野別の整備方針

土地利用の方針

・長野駅周辺における低未利用地の有効活用と土地の高度利用の促進

・広域都市拠点としての都市機能の集積と民間活力を活用した商業・業務施設の立地誘導

・空き家・空き店舗の活用促進と無秩序な駐車場立地の抑制

・善光寺門前町における歴史的街並みと調和した土地利用の誘導

交通体系・経済活動の方針

交通体系

・バス路線の最適化による公共交通の利便性向上と歩行者優先道路化の推進

・善光寺表参道のウォーカブルなまちづくりに向けた交通の適正化

・長野駅から善光寺への歩行者・自転車動線の強化と回遊性の向上

・バリアフリーな歩行空間の整備と歩道・自転車道の充実、生活道路の安全性の確保

経済活動

・公民連携による長野駅周辺への都市機能誘導と中心市街地の再生・にぎわい創出

・善光寺・仲見世通り・門前町を活かした観光振興と商業活性化

・城山公園・地附山公園等の地域資源を活かした交流促進

・歴史文化資源と連携したイベント・催事の開催支援

自然環境・緑・景観の方針

自然環境・緑の保全

・裾花川の河川環境の保全と水辺空間の親水性の向上

・裾花川や城山公園・地附山公園等を核とした水と緑のネットワーク形成

・中心市街地における緑の連続性の確保と公園・緑地の機能強化

景観の保全・育成

・善光寺を中心とした歴史的景観の保全と門前町の街並み保全

・北国街道や仲見世通り等の歴史的景観の継承

防災・脱炭素の方針

防災・減災

・裾花川の河川改修促進と内水氾濫対策の強化

・密集市街地における防災性の向上と避難路の確保

・土砂災害警戒区域等における警戒避難体制の整備と対策の推進

・建築物や公共施設の耐震化促進、避難路となる生活道路の安全性確保

脱炭素・省エネルギー

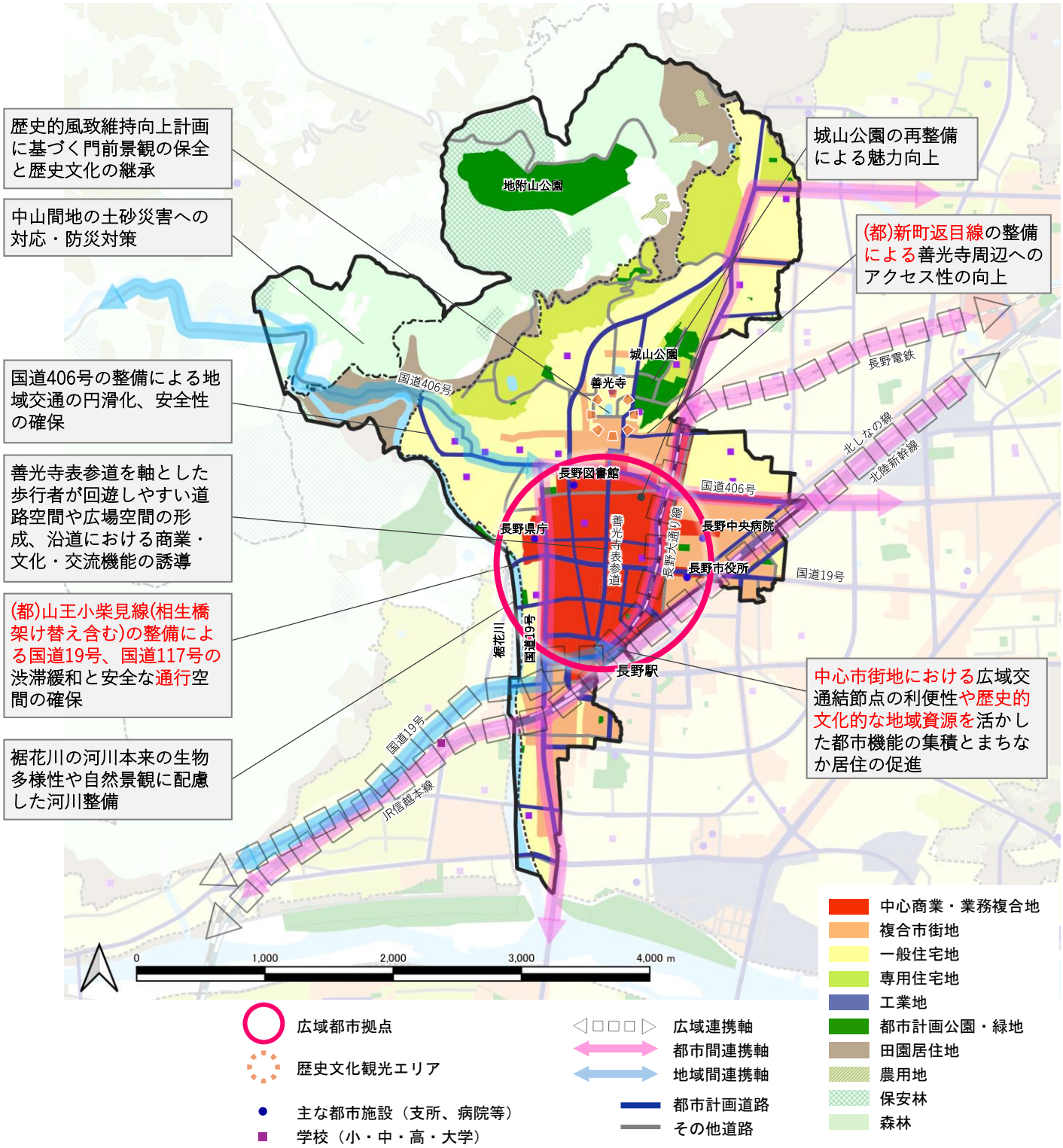
・中心市街地における歩行者・自転車優先の交通環境整備による低炭素型都市構造の形成

・公共交通の利用促進と電気自動車の充電インフラの整備促進

・ヒートアイランド対策としての緑化推進と風の道の確保

・歴史的景観と調和しながら進める再生可能エネルギーの導入促進と環境負荷の低減

■　長野駅・善光寺周辺地域の整備方針図　（事務局）

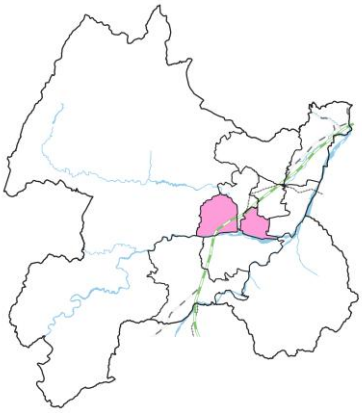


2　芹田・安茂里地域

2－1　地域の特性

(1)地勢と成り立ち

■　芹田・安茂里地域の位置図



芹田･安茂里地域は、長野市の中心市街地の南西側に位置し、犀川沿いの平坦地と西山山系の山麓部にまたがる地域です。芹田地区は善光寺平の平坦地に広がり、安茂里地区は犀川左岸の平坦部から西側の丘陵地まで多様な地形を有しています。

古くから善光寺への参詣路や交通路として発展してきた地域であり、犀川を渡る交通の要衝でもありました。安茂里地区は北国街道沿いの集落として発展し、芹田地区は明治時代以降、長野駅周辺の市街地拡大に伴い、住宅地として発展してきました。

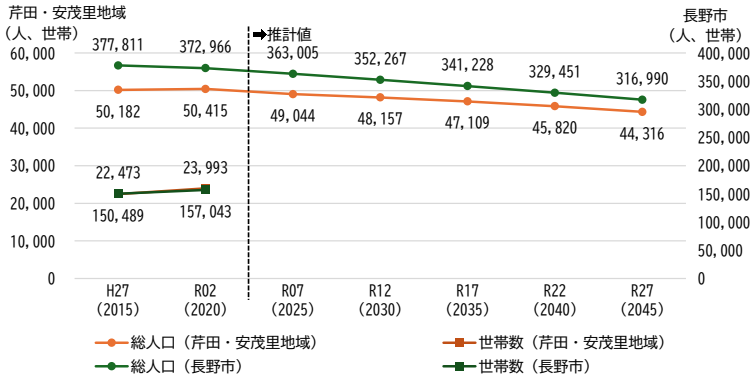
現在は、安茂里地区は犀川沿いの市街地と西山山麓の住宅地が混在する地域として、芹田地区は長野駅東口に近接する住宅地・商業地として、それぞれ長野市中心部の生活圏を形成しています。主な地域資源として、犀川の水辺空間などの自然資源、若里公園や河川敷の緑地などの公園施設、長野赤十字病院等の医療施設、信州大学工学部をはじめ小学校４校・中学校２校・高等学校２校等の教育施設があります。

(2)人口動態

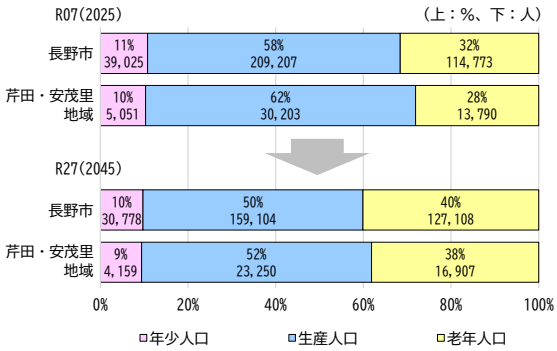
本地域の人口（2020年）は約50,400人で、長野市全体の約14％を占めています。2005年以降、人口は漸減傾向にあり、将来推計では2035年には約47,100人となり、2020年と比較して約７％減少すると見込まれています。

年齢３区分別では、年少人口（0～14歳）は10％、生産年齢人口（15～64歳）は62％、老年人口（65歳以上）は28％となっており、少子高齢化が進行しています。また、市全体と比較すると、急速なペースで高齢化率の上昇が見込まれています。

■　芹田・安茂里地域の人口と世帯数の推移



■　芹田・安茂里地域の年齢別人口割合



※実績値は国勢調査、推計値は国土数値情報250mメッシュ別将来推計人口データを基に算出

(3)地域の都市構造

①拠点、軸、ゾーン

本地域の都市構造は、長野駅周辺を広域都市拠点、安茂里駅周辺を生活拠点として、それぞれ都市機能を分担しています。芹田地区には商業施設や業務施設が集積し、安茂里地区には地域生活を支える商業施設等が配置されています。犀川の河川空間は、両地区をつなぐ自然環境として、住民の憩いの場となっています。

犀川河川敷から安茂里地区を望む

広域連携軸は国道19号及びしなの鉄道があります。都市間連携軸は、しなの鉄道と国道117号及び国道18号があり、周辺地域へのアクセスも容易な地域です。

土地利用の観点では、長野駅東口周辺から犀川沿いの広い範囲に市街地ゾーンが形成され、その周辺には田園居住ゾーンがあります。さらに、安茂里地区西側の山麓部には、中山間ゾーンが広がっており、本地域はこれら３区分からなる空間構造を形成しています。

②都市施設・交通

本地域の主な都市施設は、芹田地区においては長野駅東口周辺の市街地に近接して集積しており、地域活動の拠点となる「芹田総合市民センター」をはじめ、年間約18万人（2024年）が訪れる「長野市若里多目的スポーツアリーナ（ビッグハット）」、「県立長野図書館」などがあります。安茂里地区においては、「安茂里総合市民センター」が行政及び地域活動の拠点として機能しています。

長野赤十字病院

また、「長野赤十字病院」が立地し、地域医療の中核を担っています。さらに、犀川の河川敷には犀川緑地公園が整備されており、住民の健康づくりやスポーツ活動の場として活用されています。

交通面では、長野駅（JR・しなの鉄道・長野電鉄）及び安茂里駅（JR）が立地し、長野駅は北信地域の広域交通拠点として重要な役割を担っています。また、国道19号、国道117号、国道18号が南北に伸び、そこに県道三才大豆島中御所線や市道東通り線、市道芹田小伊勢宮線などが接続し、地域内の交通を支えています。

２－２　地域の課題

(1)分野別の主な課題

土地利用

・市街地内の空き家・低未利用地の活用と土地利用の低密度化

・安茂里地区西部中山間地における森林の適正な管理と里山環境の保全

交通体系・経済活動

・主要幹線道路（国道18号、国道19号等）の渋滞

・安茂里地区における公共交通の不足とバス路線の維持

・長野駅東口周辺と、スポーツ施設や医療機関などとの連携の不足

自然環境・緑・景観

・犀川及び裾花川の水辺環境と河川空間における生物多様性の保全

・安茂里地区北西部の山地の里山景観と自然環境の保全

・市街地内における緑の不足

防災・脱炭素

・安茂里地区西側山間部の土砂災害、犀川沿いの河川災害への備え

・駅から離れた市街地における自家用車依存からの転換と公共交通の最適化

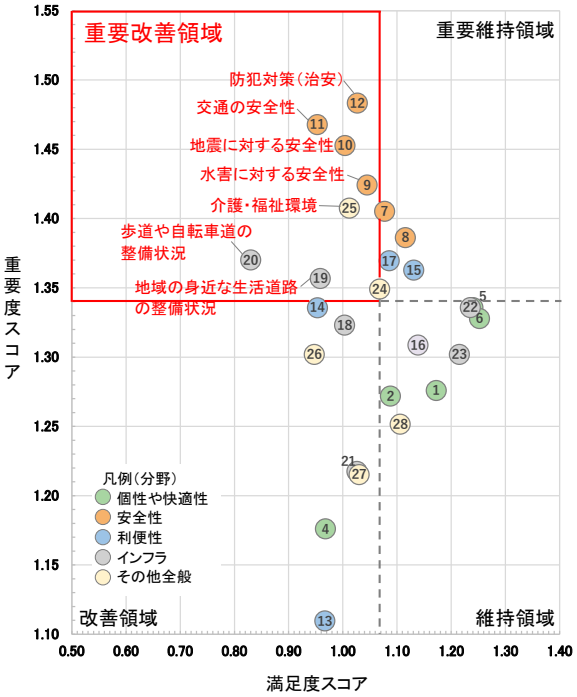
・市街地の防災性向上と災害時の避難体制の強化

(2)市民の意向

芹田・安茂里地域では、「防犯対策（治安）」「交通の安全性」「地震に対する安全性」「水害に対する安全性」など、安全性に関する項目で、重要度が高い一方で満足度が低い傾向がみられます。

また、「介護・福祉環境」「歩道や自転車道の整備状況」「地域の身近な生活道路の整備状況」についても改善の必要性が高い傾向がみられ、安全・安心な生活環境の確保に対するニーズが高い地域となっています。

■　アンケートにみる住民の認識・意向



※28項目について満足度・重要度（５段階評価）の回答を点数化し、市全体平均を基準線として４領域に区分。「重要改善領域」は、重要度が高く満足度が低い領域で、より改善の必要性が高い項目として位置づけられる。

（資料：長野市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査（令和７年））

２－３　地域の目指す姿

(1)地域のまちづくりの基本方針

芹田・安茂里地域は、長野駅東口に近接する芹田地区と犀川沿いの平坦地から西山山麓に広がる安茂里地区で構成され、善光寺の参詣路や交通の要衝として発展してきた歴史と豊かな水辺環境をあわせもつ地域で、犀川と西山の自然を活かし、以下の方針でまちづくりを進めます。

●駅周辺との連携による拠点機能の強化

芹田地区は長野駅東口に近接する立地特性を活かし、商業機能の活性化を図り、安茂里地区は安茂里駅周辺の生活拠点機能の維持・強化を図ります。両駅ともに歩行者・自転車の移動環境を整備し、駅を中心としたにぎわいと利便性の高い生活圏の形成を目指します。

●水と緑のネットワークと快適な居住環境の形成

犀川の水辺空間や若里公園などの緑地資源を中心に、市街地内における緑の連続性を確保するとともに、空き家・低未利用地の活用を進め、良好な居住環境の形成を目指します。

●安全・安心を支える防災力の向上

犀川沿いの河川災害や安茂里地区の山間部の土砂災害への備えを強化し、市街地の防災性向上と避難体制の整備を推進し、安全で暮らしやすい地域を目指します。

(2)都市づくりの目標別の方向性

目標１　豊かな自然と歴史文化を大切にする地域づくり

・犀川及び裾花川の水辺環境の保全と生物多様性の確保
・安茂里地区の山間部の森林環境の適正な管理・保全
・北国街道の歴史的な交通路に関わる地域資源の保全・活用

目標２　暮らしやすい生活基盤と経済活動を支える地域づくり

・長野駅東口周辺との連携による芹田地区の商業機能の活性化
・安茂里駅周辺の生活拠点機能の維持・強化と商業機能の活性化
・市街地内の空き家・低未利用地の活用促進
・主要幹線道路（国道18号・国道19号等）の渋滞対策と円滑な交通環境の整備

目標３　誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

・犀川沿いの河川災害対策と安茂里地区西側山間部の土砂災害対策の推進
・市街地の防災性向上と災害時の避難体制の強化
・公共交通の利用促進や電気自動車の充電インフラ整備による脱炭素社会への対応　（照会）
・高齢者や子育て世代の日常生活を支える介護・福祉環境の充実

２－４　分野別の整備方針

土地利用の方針

・長野駅東口周辺との連携による芹田地区の商業機能の活性化と土地利用の高度化

・安茂里駅周辺における生活拠点機能の維持・強化と生活利便施設の立地促進

・市街地内の空き家・低未利用地の活用促進とコンパクトな市街地形成

・安茂里地区西側中山間ゾーンにおける森林の適切な管理と里山環境の保全

交通体系・経済活動の方針

交通体系

（照会）・バス路線の維持・確保、公共交通ネットワークの最適化

・長野駅及び安茂里駅の交通結節機能の強化と駅へのアクセス性の向上

・主要幹線道路の渋滞対策（国道18号、国道19号、国道117号等）

（照会）・七瀬居町線、東通り線などの無電柱化による交通環境の向上

・バリアフリーな歩行空間や自転車道の整備による安全で快適な移動環境の形成

経済活動

・芹田地区における長野駅東口周辺との連携によるウォーカブルなまちづくりの推進

・安茂里駅周辺への店舗・サービス機能の誘導による生活拠点としての魅力向上

・ビッグハットや犀川緑地公園等のスポーツ施設を活かした交流促進

自然環境・緑・景観の方針

自然環境・緑の保全

・安茂里地区西側山間部の森林の適切な管理と生物多様性の確保

・犀川の水辺空間や緑地公園、若里公園等を核とした水と緑のネットワークの形成

・市街地内における緑の連続性の確保と街路樹等による緑化の推進

景観の保全・育成

・安茂里地区の西山山間部の里山景観の保全

・犀川及び裾花川の河川景観の保全

・北国街道等の歴史的な交通路にかかわる景観の継承と活用

防災・脱炭素の方針

防災・減災

・犀川及び裾花川の河川災害対策の強化

・安茂里地区の西側山間部の土砂災害警戒区域等における警戒避難体制の整備と対策の推進

・建築物や公共施設の耐震化促進、避難路となる生活道路の安全性確保

・防犯対策の強化と地域の治安向上による安全なまちづくりの推進

脱炭素・省エネルギー

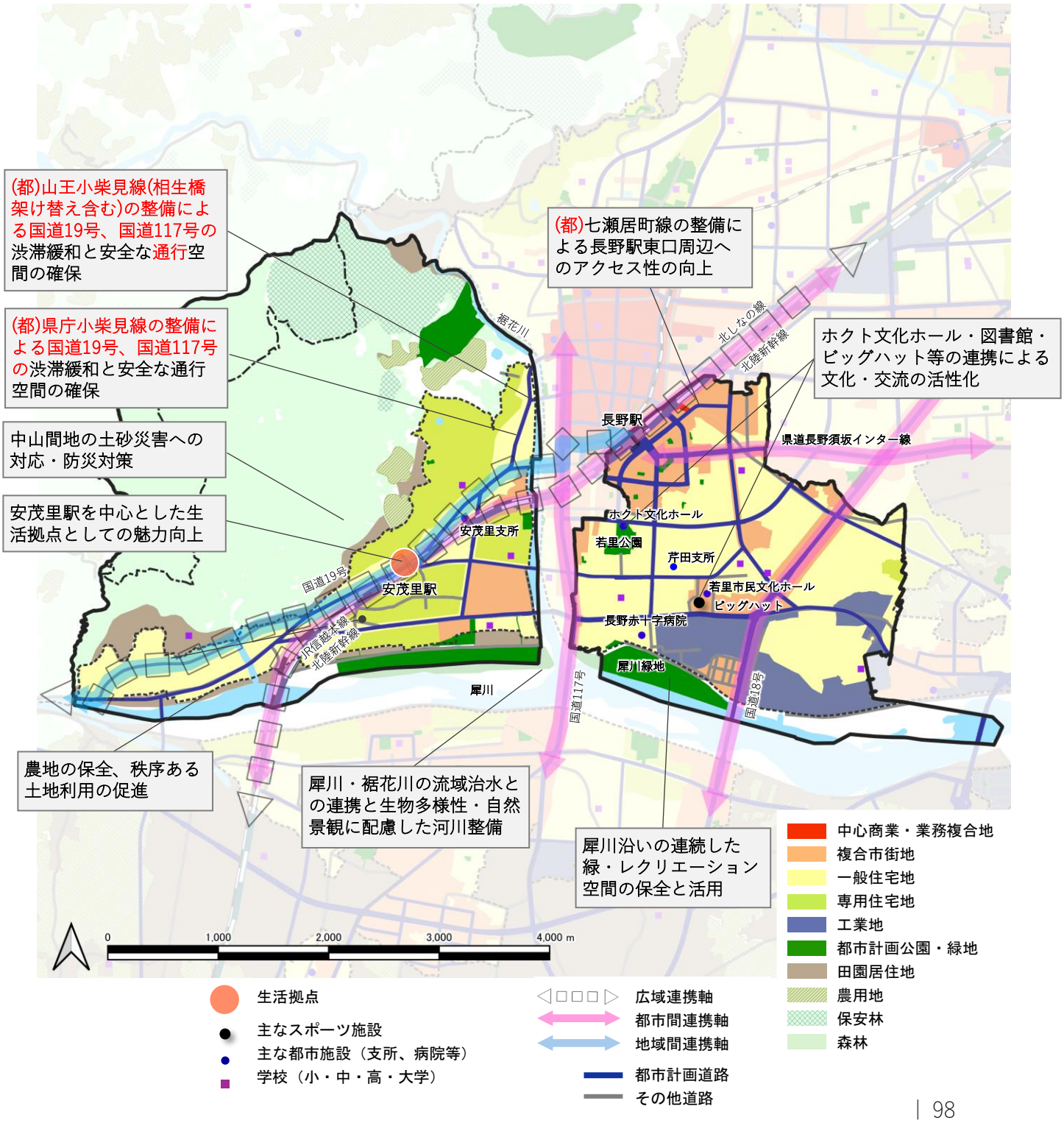
・公共交通の利用促進による自家用車依存からの転換と低炭素型都市構造の形成　（照会）

・電気自動車の充電インフラの整備促進

・駅周辺における歩行者・自転車の利用促進

・大規模な公共施設等における省エネルギー型の設備や再生可能エネルギーの普及促進

■　芹田・安茂里地域の整備方針図　（事務局）

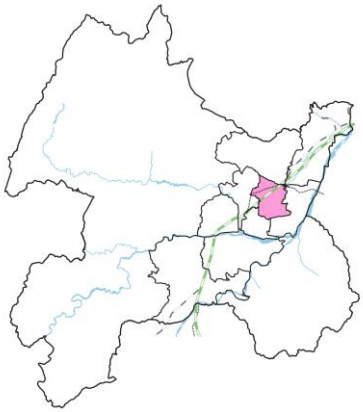


3　東部地域

3－1　地域の特性

(1)地勢と成り立ち

■　東部地域の位置図



東部地域は、長野市の東部に位置し、市の中心市街地に近接した住宅地、商業地、教育施設が集積する市街地が形成されています。地域の多くは平坦地であり、善光寺平の一角を占めています。

古くは善光寺門前町に近接する北国街道を中心に発展し、明治以降は鉄道整備や市街地拡大に伴い住宅地化が進みました。吉田地区では鉄道沿線を中心に宅地開発が進展し、三輪地区では善光寺周辺との歴史的つながりを背景に市街地が形成されました。古牧地区は長野駅東口方面の発展とともに都市化が進み、国道18号や国道406号など幹線道路沿線に商業施設等が集積しています。

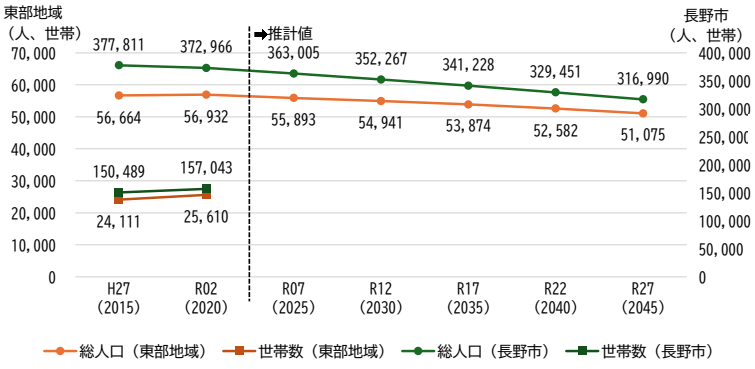
現在は、長野駅周辺市街地と一体となった住宅・商業地域として、長野市東部の生活拠点の役割を担っています。主な地域資源として、善光寺との繋がりが深い美和神社、浅川流域の自然環境、長野運動公園や辰巳公園などの公園施設、長野県立大学のほか小学校３校・中学校３校・高等学校３校・短期大学１校等の教育施設があります。

(2)人口動態

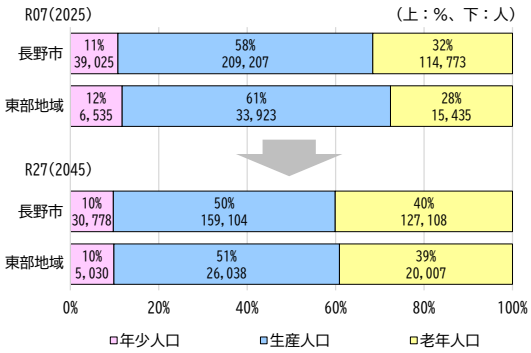
本地域の人口（2020年）は約56,900人で、長野市全体の約15％を占めています。2005年以降、人口は緩やかに減少しており、将来推計では2035年には約53,900人となり、2020年と比較して約５％減少すると見込まれています。

年齢３区分別では、年少人口（0～14歳）は12％、生産年齢人口（15～64歳）は61％、老年人口（65歳以上）は28％となっており、少子高齢化が進行しています。また、市全体と比較すると、急速なペースで高齢化率の上昇が見込まれています。

■　東部地域の人口と世帯数の推移



■　東部地域の年齢別人口割合



※実績値は国勢調査、推計値は国土数値情報250mメッシュ別将来推計人口データを基に算出

(3)地域の都市構造

①拠点、軸、ゾーン

本地域の都市構造は、北長野駅・信濃吉田駅周辺を都市拠点とし、駅周辺には都市施設が集積するとともに商業地が広がっています。長野運動公園はスポーツの拠点として、市内外から多くの人が訪れています。

広域連携軸と都市間連携軸は、国道18号やしなの鉄道北しなの線、長野電鉄長野線が担い、広域的にも中心市街地にも移動がしやすく、また公共交通機関が充実した地域です。

国道18号　上高田北交差点付近

土地利用の観点では、北長野周辺や信濃吉田駅周辺に商業・業務・住宅が集積する市街地ゾーンが形成され、古牧地区の南東には田園居住ゾーンが広がっており、本地域はこれら２区分からなる空間構造を形成しています。

②都市施設・交通

本地域の主な都市施設は、北長野駅周辺や信濃吉田駅周辺を中心とした市街地に集積し、行政及び地域活動の拠点として「古牧支所」「三輪支所」「吉田支所」などの公共施設が配置されています。また、「長野県立大学」「長野短期大学」などの教育施設が立地し、地域の生活・教育機能を支えています。さらに、地域東側には総合体育館、野球場、陸上競技場、プール、テニスコートなどを備えた「長野運動公園」が整備されており、大会やイベント開催を通じて広域交流拠点として年間約43万人（2024年度）が利用しています。

長野県立大学

交通面では、北長野駅（しなの鉄道）、信濃吉田駅（長野電鉄）など複数の駅が立地し、北長野駅の１日平均乗車人数は約1,705人、長野電鉄の本郷・桐原・信濃吉田駅はそれぞれ約1,000～1,300人（いずれも2024年）となっています。また、地域南部は国道18号、県道長野荒瀬原線（事務局）、国道406号、国道19号、県道長野須坂インター線などの主要な幹線道路が通過しており、市内外を結ぶ主要交通軸となっています。

３－２　地域の課題

(1)分野別の主な課題

土地利用

・住宅地の高齢化や人口減少に伴う空き家・低未利用地の活用と土地利用の低密度化

・幹線道路沿線における商業・業務機能の更新と適切な土地利用誘導

・市街地周辺に残る農地や緑地の減少と宅地化の進行

交通体系・経済活動

・古くからの市街地における狭隘道路や道路網の複雑化による防災・交通機能の低下

・都市施設（長野運動公園）への公共交通アクセスの不足

・北長野駅・信濃吉田駅周辺など地域拠点における商業機能や生活利便機能の低下

自然環境・緑・景観

・浅川沿いの自然環境の減少や生物多様性の低下

・住宅密集地における身近な都市公園の不足とまとまった緑の少なさ

防災・脱炭素

・密集市街地における防災性の低さと避難路の必要性

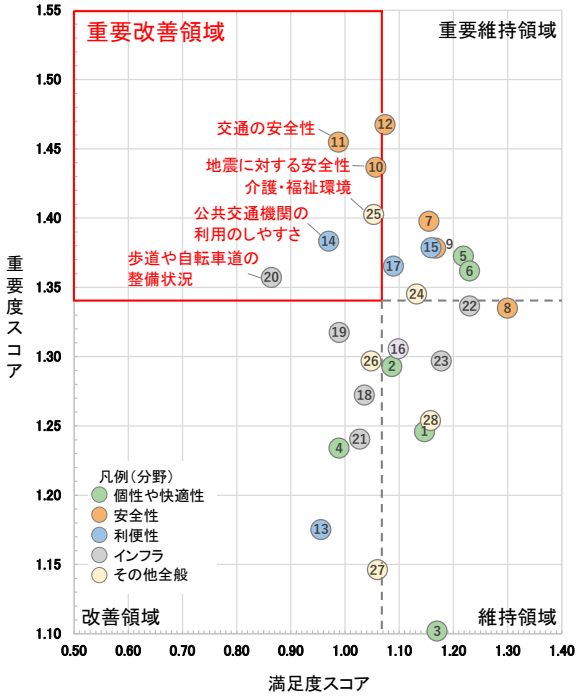
・浅川沿いの河川災害や密集市街地の内水氾濫リスクへの対応

・公共施設や大規模集客施設における脱炭素化・省エネルギー化の必要性

(2)市民の意向

東部地域では、「交通の安全性」「地震に対する安全性」「介護・福祉環境」「公共交通機関の利用のしやすさ」などについて、重要度が高い一方で満足度が低い傾向がみられます。また、「歩道や自転車道の整備状況」についても改善の必要性が高い傾向がみられ、安全性や公共交通など、日常生活を支える基盤整備へのニーズが高い地域となっています。

■　アンケートにみる住民の認識・意向



※28項目について満足度・重要度（５段階評価）の回答を点数化し、市全体平均を基準線として４領域に区分。「重要改善領域」は、重要度が高く満足度が低い領域で、より改善の必要性が高い項目として位置づけられる。

（資料：長野市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査（令和７年））

３－３　地域の目指す姿

(1)地域のまちづくりの基本方針

東部地域は、教育・商業・スポーツ交流機能が集積し、善光寺門前町や北国街道とのつながりをもち、長野駅周辺市街地と一体となって長野市東部の都市機能を支える地域として、以下の方針でまちづくりを進めます。

●駅周辺の拠点機能の強化

北長野駅や信濃吉田駅周辺において、商業・業務等の機能の集積を進め、地域の生活利便性の向上を図るとともに、歩行者空間や公共交通の利便性向上を図り、にぎわいと回遊性のある都市拠点形成を目指します。

●持続可能な都市構造の形成

既成市街地における空き家・低未利用地の活用や生活利便施設の維持・誘導を進め、公共交通ネットワークと連携したコンパクトで暮らしやすい都市構造を形成します。

●自然環境と調和した地域づくり

浅川沿いや古牧地区の南部に残る緑地・農地の保全を進めるとともに、公園や街路樹等の整備や維持管理を行い、緑の連続性を感じる地域づくりを目指します。

(2)都市づくりの目標別の方向性

目標１　豊かな自然と歴史文化を大切にする地域づくり

・浅川沿いや地域内を流れる水路等の水辺環境の保全と親水空間の整備
・古牧地区南部をはじめとする農地の保全と田園景観の維持
・長野運動公園等の既存公園の機能強化と街路樹等による緑のネットワーク形成
・善光寺門前町や北国街道とのつながりを活かした歴史文化資源の保全・活用

目標２　暮らしやすい生活基盤と経済活動を支える地域づくり

・北長野駅・信濃吉田駅周辺への商業・業務機能の集積とにぎわいの創出
・既成市街地における空き家・低未利用地の活用促進と都市機能の維持・誘導
・国道18号や主要幹線道路の機能強化と公共交通の利便性向上
・歩行者・自転車の安全で快適な移動環境の整備と回遊性の向上

目標３　誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

・密集市街地における防災性の向上と避難路の確保、建築物や公共施設の耐震化
・浅川沿いの水害対策と内水氾濫対策の推進
・公共交通の利用促進や電気自動車の充電インフラ整備による脱炭素社会への対応　（照会）
・高齢者や子育て世代の日常生活を支える生活利便施設の配置と移動環境の整備

３－４　分野別の整備方針

土地利用の方針

・駅周辺を中心とした都市機能誘導施設の立地促進とコンパクトな市街地形成

・既成市街地における空き家・空き地の適切な管理と活用の促進

・古牧地区南部をはじめとする優良農地の保全と適切な土地利用の促進

・幹線道路沿線における適切な土地利用の促進と周辺環境との調和

交通体系・経済活動の方針

交通体系

(照会)　・コミュニティバスやバス路線の最適化、北長野駅・信濃吉田駅の交通結節機能の強化

・長野運動公園等の主要施設への公共交通アクセスの改善

・幹線道路の渋滞対策（国道18号、国道406号、県道長野荒瀬原線等）

・バリアフリーな歩行空間の整備、歩道や自転車通行空間の整備促進

経済活動

・駅周辺のウォーカブルなまちづくりの推進と店舗・サービス機能の集積

・長野運動公園の地域資源を活かした交流促進

・体験農園等による都市型農業の振興

(照会)　・幹線道路周辺における交通利便性を活かした産業立地の可能性の検討

自然環境・緑・景観の方針

自然環境・緑の保全

・浅川沿いの自然環境の保全と親水空間の整備

・古牧地区南部の農地の保全

景観の保全・育成

・河川や既存の公園を核とした水と緑のネットワーク形成と身近な都市公園の充実

・善光寺や北国街道とのつながりを意識した歴史的景観の継承

防災・脱炭素の方針

防災・減災

・建築物の耐震化促進、老朽インフラの計画的な更新

・浅川の河川改修促進と内水氾濫対策の強化

・避難路となる生活道路の安全性確保、市街地内の複雑な道路網の解消

・住宅密集地などにおける地域防災力の向上と自主防災組織の活動支援

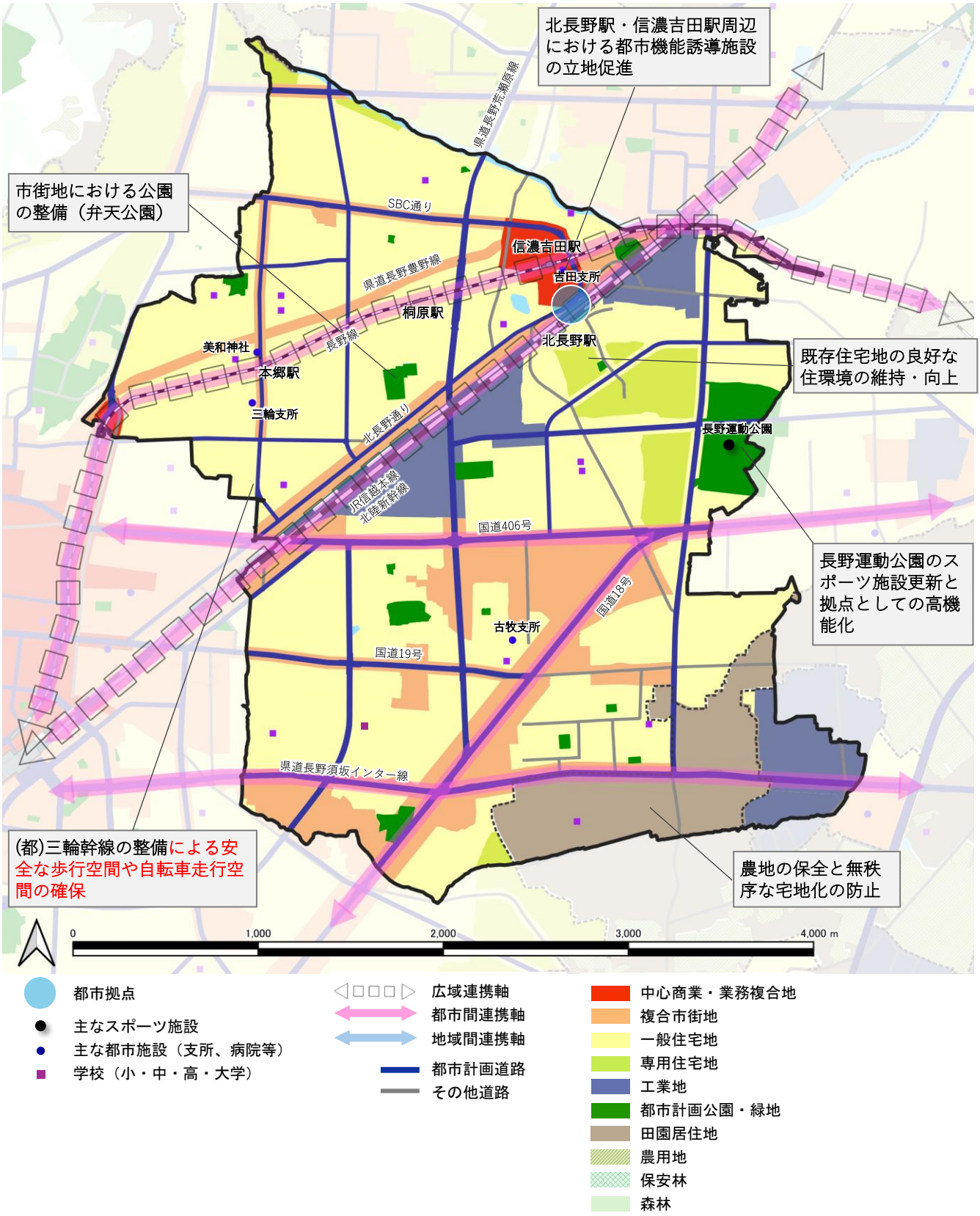
脱炭素・省エネルギー

・公共交通・自転車の利用促進による低炭素型都市構造の形成

・電気自動車の充電インフラの整備促進

・公共施設や大規模集客施設における省エネルギー化と再生可能エネルギーの導入促進

■　**東部地域の整備方針図**　（事務局）

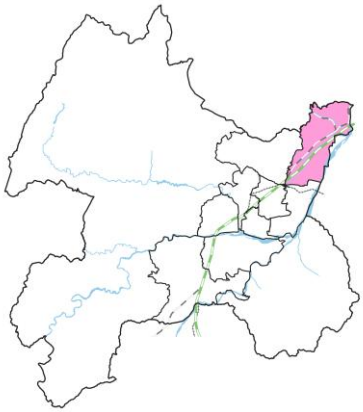


4　北部地域

4－1　地域の特性

(1)地勢と成り立ち

■　北部地域の位置図



北部地域は、長野市の北部に位置し、東側は千曲川沿いに沖積平野が広がり、西側は山地へと続く丘陵地となる多様な地形を有しています。

古くから千曲川の舟運と飯山街道や北国街道の陸運が交わる交通の要衝として発展してきた地域であり、江戸時代には宿場町として栄えました。明治時代には信越本線の開通により豊野駅が開業し、北の玄関口としての役割を担ってきました。2005年(平成17年)には豊野町が合併し、現在に至っています。

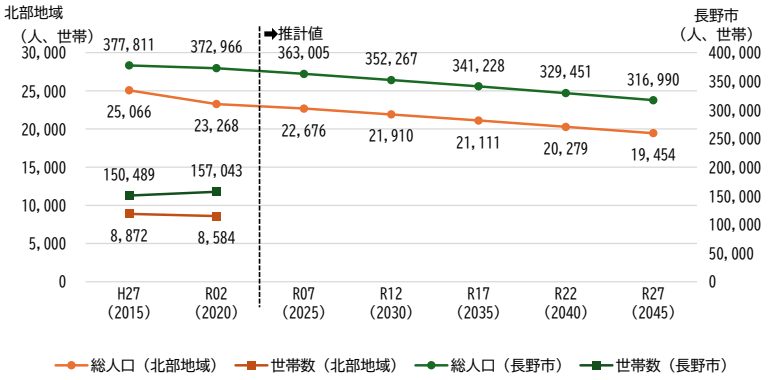
現在は、豊野駅を中心とした市街地が、長野市北部の地域拠点としての役割を担っています。主な地域資源として、千曲川の水辺空間や山地部の自然資源、旧街道の歴史資源、豊野温泉りんごの湯などの観光施設、北部スポーツ・レクリエーションパークなどの公園施設、長野市民病院などの医療施設、小学校４校・中学校２校等の教育施設があります。

(2)人口動態

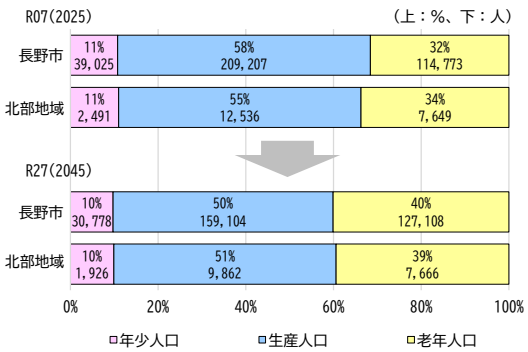
本地域の人口（2020年）は約23,300人で、長野市全体の約６％を占めています。2015年以降、人口は漸減傾向にあり、将来推計では2035年には約21,100人となり、2020年と比較して約９％減少すると見込まれています。

年齢３区分別では、年少人口（0～14歳）は11％、生産年齢人口（15～64歳）は55％、老年人口（65歳以上）は34％となっており、少子高齢化が進行しています。また、老年人口は概ね横ばいで推移する一方、年少人口及び生産年齢人口の減少により、高齢化率の上昇が見込まれており、その上昇幅は市全体と比較するとやや緩やかな傾向となっています。

■　北部地域の人口と世帯数の推移



■　北部地域の年齢別人口割合



※実績値は国勢調査、推計値は国土数値情報250mメッシュ別将来推計人口データを基に算出

(3)地域の都市構造

①拠点、軸、ゾーン

本地域の都市構造は、豊野駅周辺と三才駅周辺を生活拠点とし、周辺には生活利便施設が集積し、商業機能等が集約しています。

広域連携軸は、しなの鉄道北しなの線とJR飯山線、及び国道18号が担い、隣接する中野市や飯綱町と繋がっています。また、しなの鉄道北しなの線は都市間連携軸でもあり、長野市の中心部への主要な動線の一つとなっています。

豊野駅

土地利用の観点では、豊野駅や三才駅の周辺で市街地ゾーンが形成され、千曲川沿いの平野部には肥沃な農地と集落からなる田園居住ゾーンが広がっています。さらに、地域北側の山地部には森林や農地からなる中山間ゾーンが広がっており、本地域はこれら３区分からなる空間構造を形成しています。（事務局）

②都市施設・交通

本地域の主な都市施設は、各地区に分散配置されており、地域活動の拠点である「豊野支所」「長沼支所」「古里支所」が地域コミュニティを支え、地域の南部には地域医療を支える「長野市民病院」が立地しています。また、運動広場や体育館を備えた「北部スポーツ・レクリエーションパーク」が整備されており、住民の健康づくりやスポーツ活動の場として利用されています。さらに、日帰り温泉施設「豊野温泉りんごの湯」が立地しており、年間約22万人（2024年）が利用するなど来訪者及び地域住民の憩いの場として親しまれています。また、令和元年東日本台風による災害の教訓を踏まえた防災・コミュニティ拠点として「豊野防災交流センター」が整備され、安全・安心なまちづくりが進められています。（事務局）

豊野防災交流センター

交通面では、豊野駅（JR信越本線・しなの鉄道）が立地し、豊野駅の1日平均乗車人員は約1,800人（2024年）となっています。鉄道と並行して国道18号が地域を南北に貫通しており、広域交通の主要軸を形成しています。さらに、上信越自動車道信州中野I.C.も近く、広域的な交通利便性を有する地域となっています。

４－２　地域の課題

(1)分野別の主な課題

土地利用

・農業従事者の高齢化と後継者不足による遊休農地や荒廃農地の増加

・市街地内の空き家・低未利用地の活用と土地利用の低密度化

・産業立地ニーズ（蟹沢エリア、北部幹線周辺エリア）と農振農用地との整合

・令和元年東日本台風（台風19号）による浸水被害を受けた地域の土地利用のあり方

交通体系・経済活動

・主要幹線道路（国道18号等）の渋滞、公共交通の不足

・豊野駅周辺の商業機能の低下と地域拠点性の維持

・生活利便施設へのアクセス性の確保

・中山間地における移動手段の確保

自然環境・緑・景観

・千曲川沿いのまとまりのある水田地帯や田園景観の保全

・千曲川や山地部の自然環境における生物多様性の保全

防災・脱炭素

・山地部の土砂災害、千曲川沿いの河川災害への備え

・令和元年東日本台風での浸水被害を踏まえた治水対策と防災体制の強化

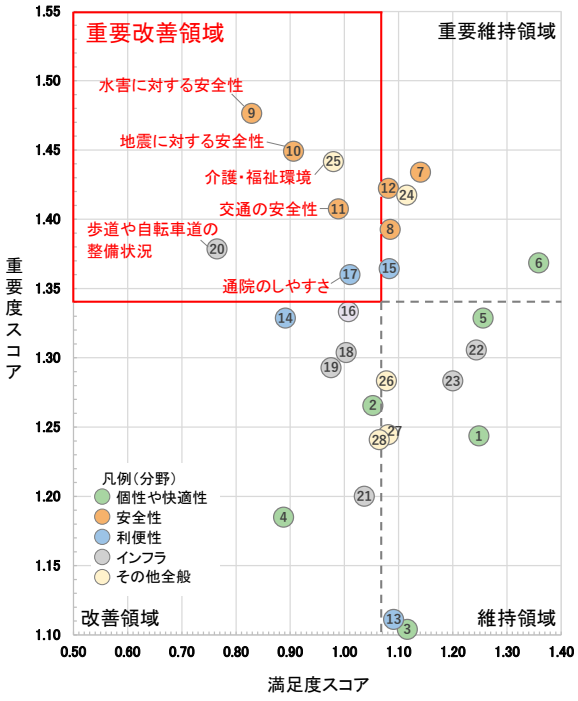
・駅から離れたエリアや中山間地における自家用車依存からの転換

(2)市民の意向

北部地域では、「水害に対する安全性」が特に重要度が高く、「地震に対する安全性」「交通の安全性」など、防災・交通安全に関する項目で、重要度が高い一方で満足度が低い傾向がみられます。

また、「介護・福祉環境」や「歩道や自転車道の整備状況」「通院のしやすさ」についても、改善の必要性が高く、防災性の向上や安全な移動環境の充実が求められています。

■　アンケートにみる住民の認識・意向



（資料：長野市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査（令和７年））

※28項目について満足度・重要度（５段階評価）の回答を点数化し、市全体平均を基準線として４領域に区分。「重要改善領域」は、重要度が高く満足度が低い領域で、より改善の必要性が高い項目として位置づけられる。

４－３　地域の目指す姿

(1)地域のまちづくりの基本方針

北部地域は、千曲川と山地部の豊かな自然に恵まれた地域で、一方で千曲川の氾濫原に位置することから水害リスクを抱えており、住民の意識においても水害への対策が最重要課題となっています。こうした地域の特性を踏まえ、以下の方針でまちづくりを進めます。

●駅周辺の地域拠点機能の維持・強化

駅周辺の商業機能の低下に対応するため、歩きやすいまちづくりや公共交通の利便性向上により、地域拠点としてのにぎわいと都市機能の維持・再生を目指します。

●安全で安心して暮らせる地域基盤の構築

令和元年東日本台風の浸水被害を踏まえた治水対策と防災体制の強化を進めるとともに、安全な移動環境の充実により、災害に強く誰もが安心して暮らせる地域を目指します。

●豊かな自然環境と歴史を活かした地域づくり

千曲川沿いの農地と田園景観、山地部の森林等の自然環境の保全を進めるとともに、水運・街道の歴史資源や果樹や農産物等の観光施設を活用し、魅力ある地域を目指します。

(2)都市づくりの目標別の方向性

目標１　豊かな自然と歴史文化を大切にする地域づくり

・千曲川の水辺空間と山地部の自然環境の保全と生物多様性の確保
・千曲川沿いのまとまりのある優良農地の保全と良好な田園景観の維持
・北部スポーツ・レクリエーションパークの機能強化と豊野温泉りんごの湯の活用促進　（照会）
・水運や街道の歴史文化資源の保全・活用

目標２　暮らしやすい生活基盤と経済活動を支える地域づくり

・豊野駅周辺への生活利便施設の集積と商業機能の維持・強化
・豊野駅周辺と三才駅周辺を生活拠点とした都市機能の集約とコンパクトな市街地形成
・信州中野I.C.等の広域交通利便性を活かした産業立地の可能性検討
・歩行者・自転車の安全で快適な移動環境の整備

目標３　誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

・令和元年東日本台風の浸水被害を踏まえた千曲川の治水対策の強化
・西側山間部における土砂災害対策の推進
・建築物や公共施設の耐震化、老朽インフラの計画的な更新
・高齢者や子育て世代の日常生活を支える生活利便施設の配置と移動環境の整備

４－４　分野別の整備方針

土地利用の方針

・豊野駅周辺への生活利便施設の立地促進と商業機能の維持・強化

・市街地の無秩序な拡大の抑制と計画的な土地利用の誘導

・令和元年東日本台風による浸水被害を受けた地域における適切な土地利用の誘導

・千曲川沿いの優良農地の保全と遊休農地・荒廃農地対策の推進

・農振農用地との整合を図りながらの産業立地の可能性検討

交通体系・経済活動の方針

交通体系

(照会)

・路線バスや乗合タクシー等による公共交通ネットワークの最適化

・県道村山豊野停車場線の整備による豊野駅周辺のアクセス性の向上

・歩道や自転車道の整備による安全で快適な移動環境の確保

・バリアフリーな歩行空間の整備と高齢者・子育て世代に配慮した移動環境の充実

経済活動

・豊野駅・豊野支所周辺への店舗・サービス機能の誘導による商業活性化

・豊野温泉りんごの湯や北部スポーツ・レクリエーションパーク等の地域資源を活かした交流促進

・果樹や農産物を活かした観光農園や６次産業化の推進

自然環境・緑・景観の方針

自然環境・緑の保全

・千曲川の河川環境の保全と生物多様性の確保

・山地地の森林の適切な管理と生物多様性の確保

・市街地周辺の農地の保全

景観の保全・育成

・千曲川とまとまりのある農地、山地部の連続した田園景観の保全

・西部中山間地の里山風景の保全

防災・脱炭素の方針

防災・減災

・令和元年東日本台風の浸水被害を踏まえた千曲川の河川改修促進と治水対策の強化

・西側山間部における土砂災害警戒区域等の警戒避難体制の整備と対策の推進

・地域防災体制の強化と防災意識の向上

・建築物や公共施設の耐震化促進と老朽インフラの計画的な更新

脱炭素・省エネルギー

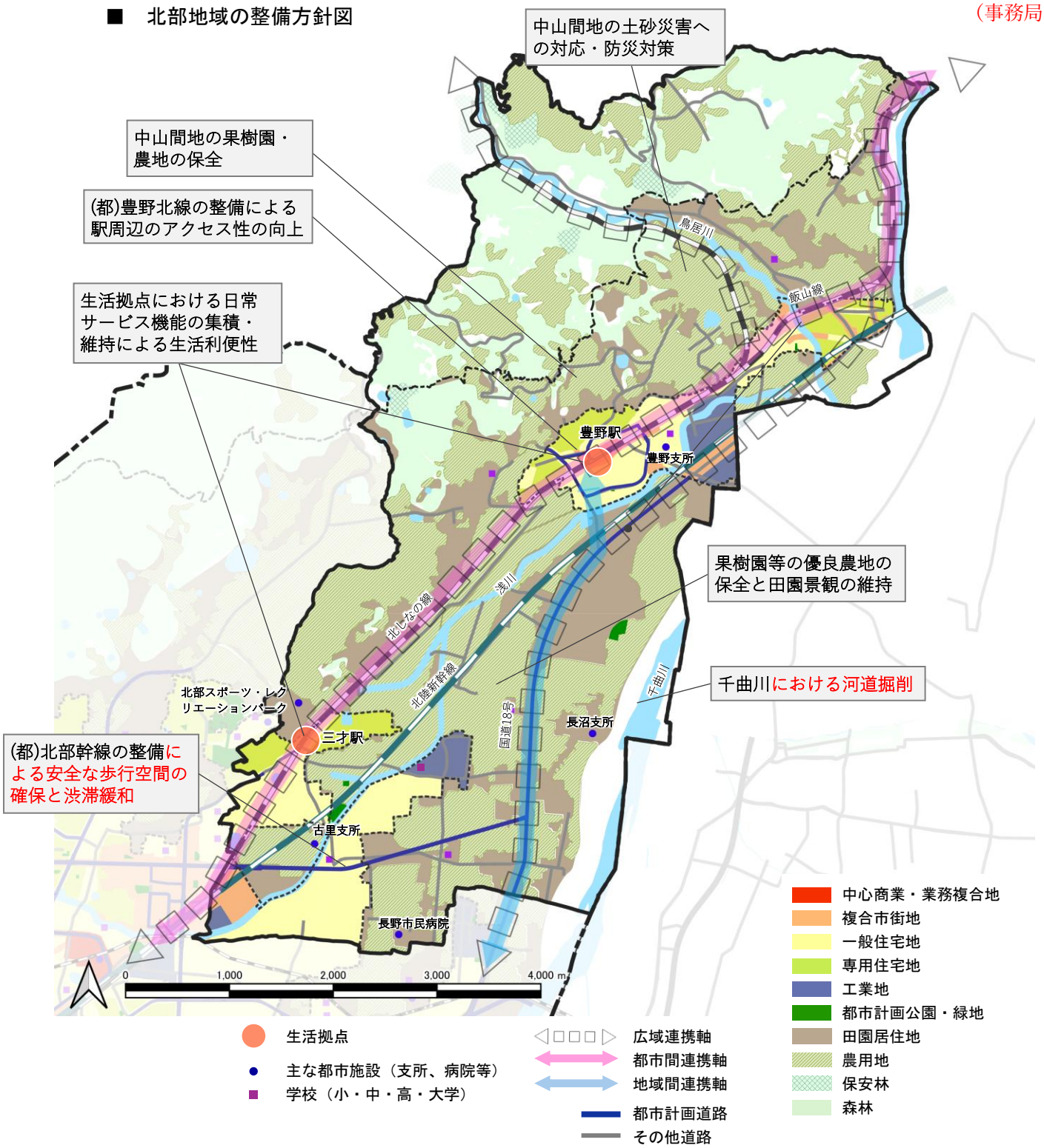
・公共交通の利便性向上と利用促進による低炭素型都市構造の形成

・電気自動車の充電インフラの整備促進

・森林・水・太陽光等の地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入促進（農地・田園景観への影響に配慮した立地誘導）

■　北部地域の整備方針図

（事務局）



5　浅川・若槻地域

5－1　地域の特性

(1)地勢と成り立ち

■　若槻・浅川地域の位置図

若槻・浅川地域は、長野市の北部に位置し、市街地に近接しながら豊かな自然環境を有する地域です。地域の東側は浅川の扇状地と緩やかな丘陵地が広がり、西側には山地部へ連なる中山間地が形成されています。

古くから善光寺平北部の生活・交通圏の一部として発展してきた地域であり、江戸時代には善光寺へ通じる北国街道沿いに集落が形成されました。明治時代以降は果樹栽培が盛んになり、特にりんご栽培を中心とした農業地域として発展し、その後、長野市中心部へのアクセス性の高さから住宅地化が進み、特に若槻地区では、稲田、徳間、檀田などを中心に土地区画整理事業や宅地開発が進展しました。

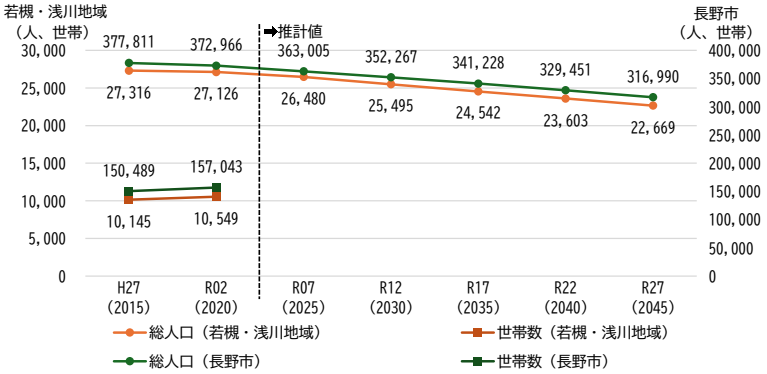
現在では長野市北部を代表する生活拠点としての役割を担っています。主な地域資源として、浅川や駒沢川の水辺空間やなどの自然資源、昭和の森公園などの公園施設、国立病院機構東長野病院等の医療施設、長野工業高等専門学校や清泉女学院大学のほか、小学校３校・中学校１校・高等学校１校等の教育施設があります。

(2)人口動態

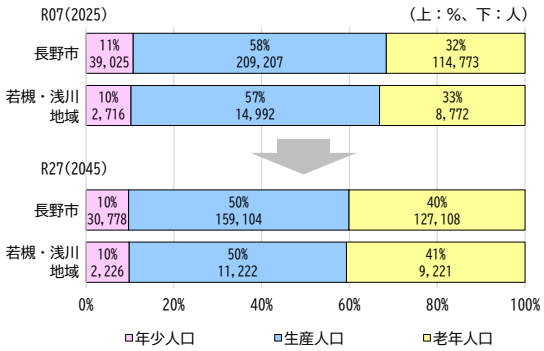
本地域の人口（2020年）は約27,100人で、長野市全体の約７％を占めています。2005年以降、人口は漸減傾向にあり、将来推計では2035年には約24,500人となり、2020年と比較して約10％減少すると見込まれています。

年齢３区分別では、年少人口（0～14歳）は10％、生産年齢人口（15～64歳）は57％、老年人口（65歳以上）は33％となっており、少子高齢化が進行しています。また、市全体と比較すると、やや緩やかなペースで高齢化率の上昇が見込まれています。

■　若槻・浅川地域の人口と世帯数の推移



■　若槻・浅川地域の年齢別人口割合



※実績値は国勢調査、推計値は国土数値情報250mメッシュ別将来推計人口データを基に算出

(3)地域の都市構造

①拠点、軸、ゾーン

本地域の都市構造は、長野市の中心部から広がる市街地に連続して良好な住宅地が形成され、北外環沿いには商業施設等が集積しています。

広域連携軸は、しなの鉄道北しなの線があり、地域を東西に通る北部幹線（サンロード）が都市間連携軸の役割を担っています。また、地域間連携軸として戸隠方面へのアクセス路となる県道戸隠高原浅川線（浅川ループライン）があります。

浅川地区の集落（中曽根）と田園風景

土地利用の観点では、平野部に住宅地を中心とした市街地ゾーンが形成され、その西側には果樹園や農地、集落からなる田園居住ゾーンが広がっています。さらにその北側の山地部は森林や農地、点在する集落からなる中山間ゾーンが広がっており、本地域はこれら３区分からなる空間構造を形成しています。

②都市施設・交通

本地域の主な都市施設は、北部幹線（サンロード）沿道や若槻地区中心部を中心とした市街地に集積しており、行政および地域活動の拠点である若槻支所、浅川支所をはじめ、教育・福祉・医療施設や商業施設が立地しています。若槻地区には「若槻体育館」などのスポーツ施設も整備されており、地域住民の健康増進やコミュニティ活動の場として利用されています。

若槻地区の天神木公園と住宅地

交通面では、地域内に駅は設置されていないため、住民の主な移動手段はバスや自家用車となっています。地域の東西を貫く北部幹線や南北を貫く県道長野荒瀬原線などが幹線道路として機能しています。

５－２　地域の課題

(1)分野別の主な課題

土地利用

・農業従事者の高齢化と後継者不足による遊休農地や荒廃農地の増加

・果樹園の維持管理の困難さ

(照会)　・土砂災害のリスクを考慮した適切な土地利用の推進

・産業立地ニーズ（田子池南エリア）と農振農用地との整合

・西側山地部における森林の適正な管理

交通体系・経済活動

・鉄道駅が地域内に存在しないことによる公共交通アクセスの制約

・地域内商業機能の減少と買い物利便性の低下

自然環境・緑・景観

・市街地周辺のまとまりのある果樹園や農地、田園景観の保全

(照会)　・浅川などの山地部の自然環境における生物多様性の保全

・市街地内における緑の連続性の確保、水と緑のネットワーク形成

防災・脱炭素

・西側山間部の土砂災害への備え

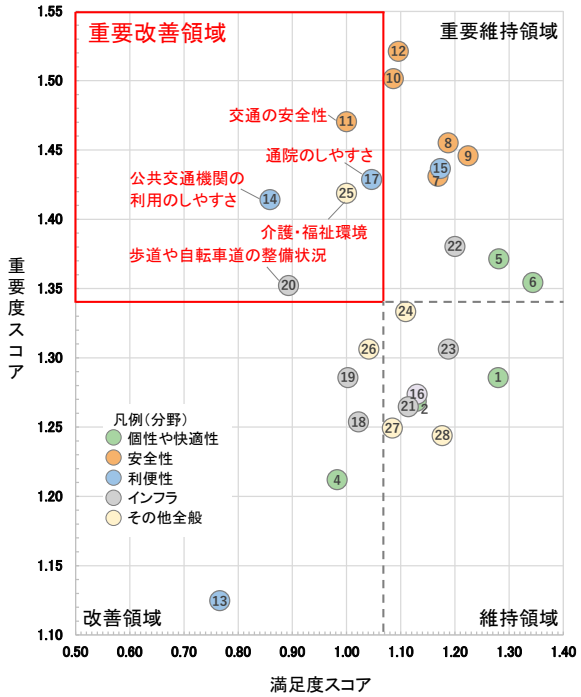
・鉄道駅から離れた地域全体における自家用車依存からの転換

(2)市民の意向

若槻・浅川地域では、「通院のしやすさ」「交通の安全性」「公共交通機関の利用のしやすさ」「介護・福祉環境」などについて、重要度が高い一方で満足度が低い傾向がみられます。

また、「歩道や自転車道の整備状況」についても、改善の必要性が高い傾向がみられ、交通環境や移動利便性の向上に対するニーズが高い地域となっています。

■　アンケートにみる住民の認識・意向



※28項目について満足度・重要度（５段階評価）の回答を点数化し、市全体平均を基準線として４領域に区分。「重要改善領域」は、重要度が高く満足度が低い領域で、より改善の必要性が高い項目として位置づけられる。

（資料：長野市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査（令和７年））

５－３　地域の目指す姿

(1)地域のまちづくりの基本方針

若槻・浅川地域は、中心市街地に近接する利便性と果樹園や山地部の恵まれた自然環境をあわせもつ地域で、この強みを活かし、以下の方針でまちづくりを進めます

●生活拠点としての利便性向上

鉄道駅が地域内にない状況を踏まえ、北部幹線(サンロード)などの主要幹線道路沿道を中心とした商業・生活サービス機能の集積を図るとともに、公共交通の利便性向上と歩行者・自転車の安全な移動環境の整備により、誰もが暮らしやすい地域づくりを目指します。

●多層的な土地利用による地域構造の維持

平野部の市街地、果樹園・農地からなる田園居住、山地部の中山間という３層の空間構造を活かし、それぞれの特性に応じた土地利用の適正化と地域資源の保全・活用を図ります。

●持続可能な農業と地域環境の継承

農業の担い手確保と遊休農地の有効活用を進め、市街地周辺の田園景観を保全するとともに、山地部の森林や浅川の水辺空間などの自然環境と調和した地域づくりを推進します。

(2)都市づくりの目標別の方向性

目標１　豊かな自然と歴史文化を大切にする地域づくり

・浅川・駒沢川の水辺空間と山地部の自然環境の保全と生物多様性の確保
・果樹園や農地の保全と良好な田園景観の維持
・昭和の森公園等の既存公園施設の機能強化と活用促進
・善光寺へ通じる街道沿いの歴史文化資源の保全・活用

目標２　暮らしやすい生活基盤と経済活動を支える地域づくり

・北部幹線をはじめ主要幹線道路沿道への生活利便施設の維持・集積とにぎわいの創出
・若槻支所・浅川支所周辺における地域拠点機能の維持・強化
・幹線道路の機能向上と公共交通の利便性向上
・歩行者・自転車の安全で快適な移動環境の整備

目標３　誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

・西側山間部における土砂災害対策の推進
・建築物や公共施設の耐震化、老朽インフラの計画的な更新
・高齢者や子育て世代の生活を支える医療・福祉・教育施設の維持と移動環境の向上

５－４　分野別の整備方針

土地利用の方針

・北部幹線等の主要幹線道路沿道における商業・生活サービス施設の立地促進

(照会)　・土砂災害のリスクを考慮した防災機能を備えた、地域コミュニティの核となる施設や拠点の誘導

・良好な住宅地における居住環境の維持・向上と市街地周辺の果樹園や優良農地の保全

・農振農用地との整合を図りながらの産業立地の可能性検討

・山地部の中山間地域における森林の適切な管理と集落環境の維持

交通体系・経済活動の方針

交通体系

(照会)　・バス路線の最適化と中山間地域におけるデマンド交通等の導入による公共交通の利便性向上

・北部幹線の延伸による広域交通の円滑化

・歩道や自転車道の整備拡充による安全で快適な移動環境の整備

・主要幹線道路と生活道路の適切な役割分担による交通円滑化

経済活動

・主要幹線道路沿道における商業機能の維持・集積による買い物利便性の向上

・農業の担い手育成・確保、体験農園や６次産業化によるりんご等の果樹産業の振興

自然環境・緑・景観の方針

自然環境・緑の保全

・山地部の森林の適切な管理と生物多様性の確保

・浅川・駒沢川の河川環境の保全と水辺空間の保全・活用

・市街地周辺の果樹園や農地の保全による田園環境の維持

・昭和の森公園等の既存公園施設の機能強化と活用促進

景観の保全・育成

・果樹園を中心とした田園景観、山地部の里山風景の保全

・善光寺へ通じる街道沿いの歴史的景観の継承

防災・脱炭素の方針

防災・減災

・西側山間部における土砂災害警戒区域等の警戒避難体制の整備と対策の推進

・建築物や公共施設の耐震化促進と老朽インフラの計画的な更新

・避難路となる生活道路の安全性確保と地域防災体制の強化

脱炭素・省エネルギー

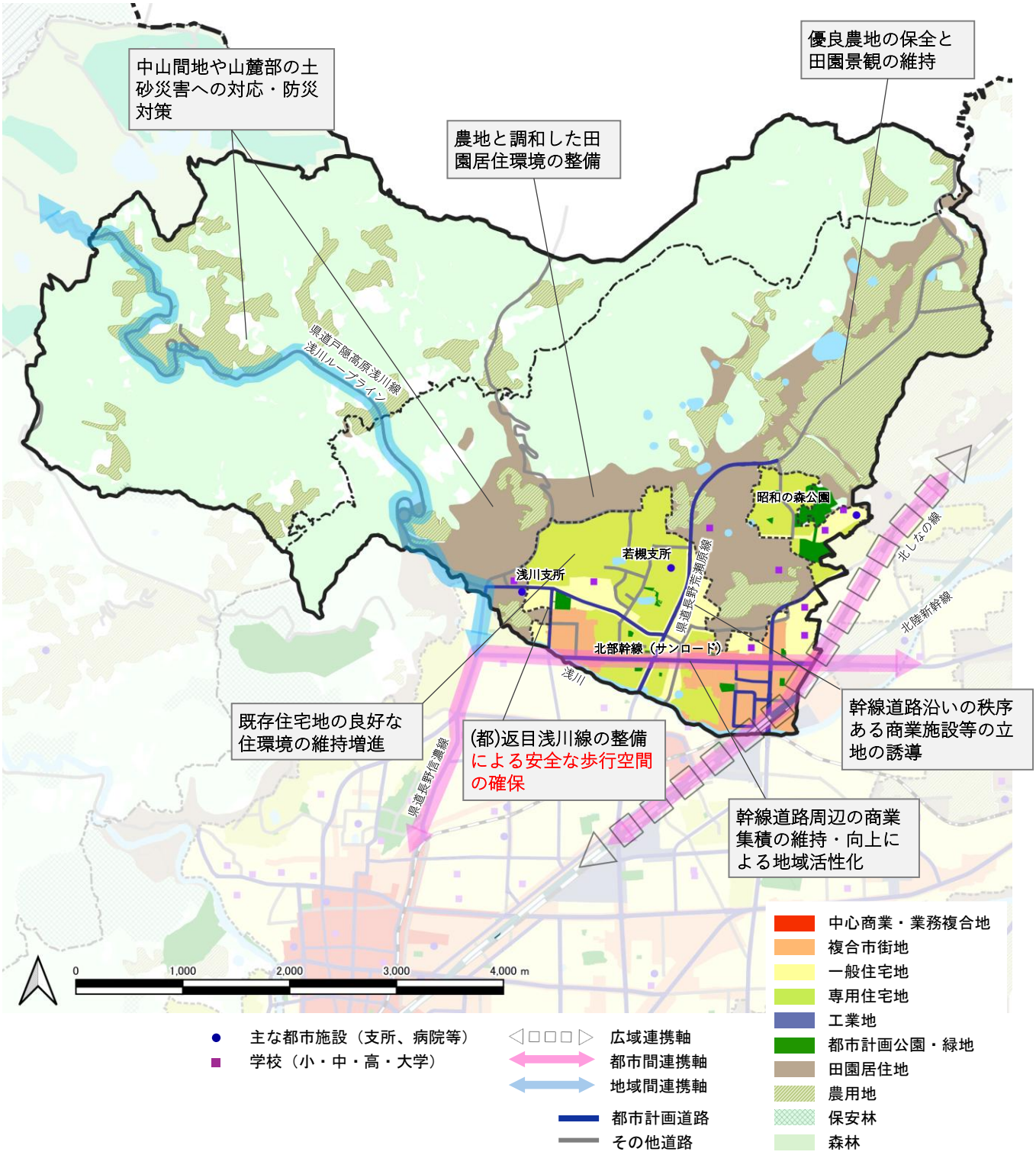
・公共交通の利用促進と自転車・徒歩による移動環境の整備による自家用車依存からの転換

・電気自動車の充電インフラの整備促進

・太陽光等の再生可能エネルギーの導入促進（農地・里山景観への影響に配慮した立地誘導）

（事務局）

■　若槻・浅川地域の整備方針図

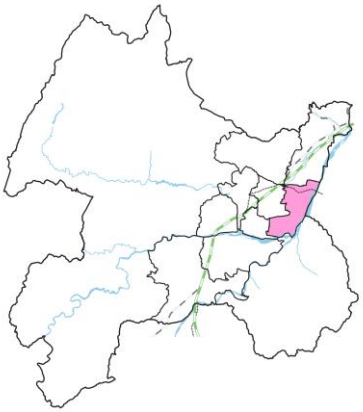


6　千曲川沿川地域

6－1　地域の特性

(1)地勢と成り立ち

■　千曲川沿川地域の位置図



千曲川沿川地域は、長野市の北東部に位置し、千曲川左岸に沿って広がる平坦な地域です。沖積平野の広がりに千曲川の豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた地形を有しており、農業が盛んな地域として発展してきました。

古くから千曲川の水運と街道交通と関わりながら発展してきた地域であり、江戸時代には北国街道の往来や善光寺平の農業生産を支える地域として栄えていました。一方で千曲川の氾濫原に位置することから、住民は水害と向き合いながら生活を営んできました。戦後は長野市街地の拡大に伴い、住宅地や工業・流通施設が立地する市街地としての性格も強めてきました。

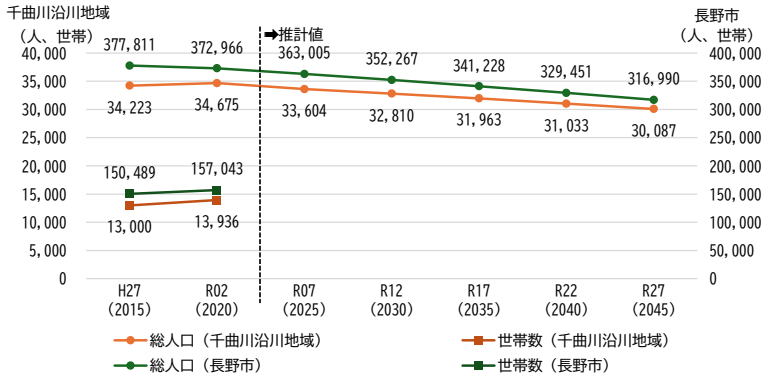
現在は、長野市北東部の住宅地・農業地域であり、主な地域資源として、犀川・千曲川の水辺空間や河川敷などの自然資源、古くからの水田地帯が織りなす田園景観、長野市オリンピック記念アリーナ（エムウェーブ）といったスポーツ・レクリエーション施設、小学校３校・中学校１校・高等学校１校等の教育施設があります。

(2)人口動態

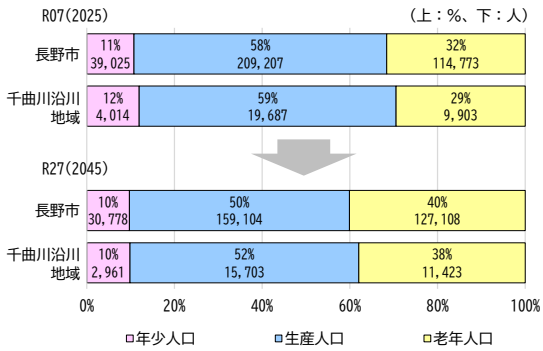
本地域の人口（2020年）は約34,700人で、長野市全体の約９％を占めています。2005年以降、人口は漸減傾向にあり、将来推計では2035年には約32,000人となり、2020年と比較して約８％減少すると見込まれています。

年齢３区分別では、年少人口（0～14歳）は12%、生産年齢人口（15～64歳）は59%、老年人口（65歳以上）は29%となっており、少子高齢化が進行しています。また、市全体と比較すると、高齢化率はやや高い水準となっています。

■　千曲川沿川地域の人口と世帯数の推移



■　千曲川沿川地域の年齢別人口割合



※実績値は国勢調査、推計値は国土数値情報250mメッシュ別将来推計人口データを基に算出

(3)地域の都市構造

①拠点、軸、ゾーン

本地域の都市構造は、各地区の生活拠点を中心に柳原・朝陽を生活拠点とし、大豆島を含めた各地区にそれぞれコミュニティ施設や商業施設が配置されています。また、エムウェーブなどのスポーツ施設が立地し、住民の健康増進や憩いの場となっています。

国道18号　北尾張部交差点付近

広域連携軸は国道18号と東外環状線（国道18号長野東バイパス及び県道三才大豆島中御所線）であり、県道長野須坂インター線と連携して上信越自動車道の須坂長野東I.C.へのアクセス性に優れています。都市間連携軸は国道18号が担い、県道長野須坂インター線と併せて中心市街地方面へのアクセス路となっています。

土地利用の観点では、長野駅を中心とした市街地の広がりから地域の西側と国道18号沿線に市街地ゾーンが形成され、その他の平地は、農地と集落からなる田園居住ゾーンが広がっており、本地域はこれら２区分からなる空間構造を形成しています。

②都市施設・交通

本地域の主な都市施設は、各地区に分散配置されており、地域活動の拠点である支所と公民館が併設・隣接した「柳原交流センター」「朝陽支所」「大豆島総合市民センター」が地域コミュニティを支えています。また、「エムウェーブ」は年間約20万人（2024年）、「サンマリーンながの」は年間約31万人（2024年）、「千曲川リバーフロントスポーツガーデン」は年間約1,360件（2024年）など、利用者の多い大規模施設があるのもこの地域の特徴です。

柳原交流センター

交通面では、地域内に鉄道駅は立地していないものの、長野駅や北長野駅へは路線バスや自家用車でアクセス可能となっています。地域内を南北に通る東外環状線と、そこに接続する国道18号や県道長野須坂インター線により、長野市街地や須坂・中野方面へのアクセスにも優れ、さらに上信越自動車道須坂長野東I.C.へのアクセスにも優れており、広域的な交通利便性を有しています。

６－２　地域の課題

(1)分野別の主な課題

土地利用

・農業従事者の高齢化と後継者不足による優良農地の遊休化や荒廃農地の増加

・幹線道路沿いを中心とした無秩序な農地の宅地化・商業地化の進行

・既存住宅地内における空き家・低未利用地の活用と居住環境の低密度化

・千曲川沿いの低地部における浸水リスクを考慮した適切な土地利用の推進

交通体系・経済活動

・古くからの集落でみられる地域内生活道路の狭隘性

・鉄道駅が立地していない地域の公共交通の不足と自家用車への依存

・長野駅周辺や他の拠点へのアクセス性の向上

・地域商業機能の維持と買い物利便性の確保

自然環境・緑・景観

・千曲川沿いに広がるまとまりのある水田地帯や田園景観の保全

・千曲川の水辺環境における生物多様性の保全と親水空間の創出

・市街地と河川を結ぶ緑の連続性の確保、水と緑のネットワーク形成

防災・脱炭素

・千曲川の洪水・浸水被害に対する防災対策の強化と避難体制の整備

・河川堤防の強化や内水氾濫対策の推進

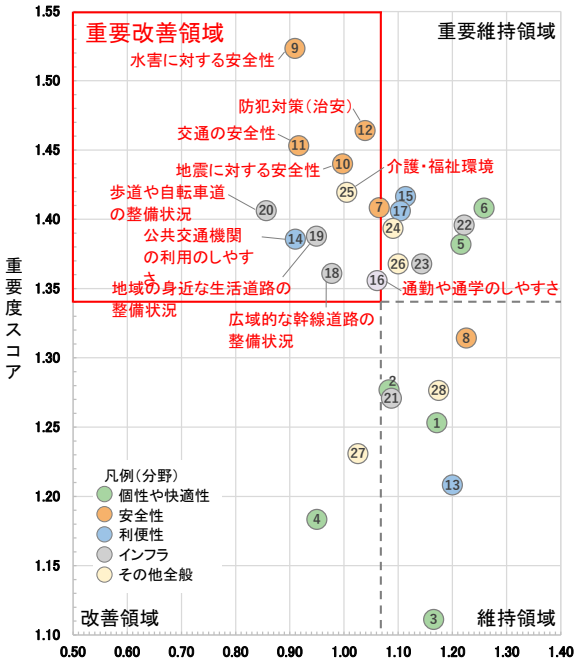
・公共交通が不足する地域における自家用車依存からの転換と環境負荷の低減

(2)市民の意向

千曲川沿川地域では、「水害に対する安全性」の重要度が特に高く、「防犯対策（治安）」「交通の安全性」「地震に対する安全性」など、安全性に関する項目についても、重要度が高い一方で満足度が低い傾向がみられます。

また、「公共交通機関の利用のしやすさ」「歩道や自転車道の整備状況」「地域の身近な生活道路の整備状況」「広域的な幹線道路の整備状況」についても、改善の必要性が高く、水害リスクへの意識の高さや交通・生活環境の向上に対するニーズが高い地域となっています。

■　アンケートにみる住民の認識・意向



（資料：長野市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査（令和７年））

※28項目について満足度・重要度（５段階評価）の回答を点数化し、市全体平均を基準線として４領域に区分。「重要改善領域」は、重要度が高く満足度が低い領域で、より改善の必要性が高い項目として位置づけられる。

６－３　地域の目指す姿

(1)地域のまちづくりの基本方針

千曲川沿川地域は、千曲川の豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた田園景観が広がる一方、この氾濫原に位置することから水害リスクを抱えており、住民の意識においても水害への対策が課題となっています。こうした地域の特性を踏まえ、以下の方針でまちづくりを進めます。

●水害に強い安全・安心な地域づくり

千曲川の洪水・浸水リスクを踏まえた治水対策と防災体制の強化を進め、住民の生命と財産を守る安全・安心な地域を目指します。

●公共交通と生活道路の利便性向上

路線バス等の公共交通機関の最適化と歩道・自転車道の整備、狭隘な生活道路の改善を進め、中心市街地や他拠点へのアクセス性向上と日常生活の利便性向上を図ります。

●豊かな水と緑の田園環境の保全と活用

千曲川の豊かな水辺環境と、まとまりのある水田地帯の田園景観を保全するとともに、優良農地の維持や農業の持続的な発展を図り、水と緑に親しめる地域づくりを進めます。

(2)都市づくりの目標別の方向性

目標１　豊かな自然と歴史文化を大切にする地域づくり

・千曲川・犀川の水辺環境における生物多様性の保全と親水空間の創出

・まとまりのある水田地帯の保全と良好な田園景観の維持

・エムウェーブ・サンマリーンながの等のスポーツ・交流施設の機能強化と活用促進

目標２　暮らしやすい生活基盤と経済活動を支える地域づくり

・柳原・朝陽の生活拠点における地域商業機能の維持と買い物利便性の確保

・国道18号・東外環状線・県道長野須坂インター線等の幹線道路ネットワークの機能強化

・須坂長野東I.C.へのアクセス性を活かした広域交通利便性の向上

・既存住宅地内における空き家・低未利用地の活用促進と良好な居住環境の維持

目標３　誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

・千曲川の洪水・浸水被害に対する河川堤防の強化の推進

・千曲川沿いの低地部における浸水リスクを考慮した適切な土地利用

・建築物や公共施設の耐震化、老朽インフラの計画的な更新

・高齢者や子育て世代の日常生活を支える生活利便施設の配置と移動環境の整備

６－４　分野別の整備方針

土地利用の方針

・まとまりのある優良農地の保全と遊休農地・荒廃農地の多面的利用の促進

・幹線道路沿いにおける無秩序な農地の宅地化・商業地化の抑制と計画的な土地利用の誘導

・市街地と田園居住地の適切な土地利用区分の維持

（照会）・浸水災害のリスクを考慮した防災機能を備えた、地域コミュニティの核となる施設や拠点の誘導

交通体系・経済活動の方針

交通体系

・東外環状線・県道長野須坂インター線等の幹線道路の渋滞対策と機能強化

・須坂長野東I.C.へのアクセス性を活かした広域交通利便性の向上

・路線バス等の公共交通機関の最適化と、安全で快適な歩行者・自転車の移動環境の整備

経済活動

・幹線道路沿いへの商業施設の集約と利便性の向上

・エムウェーブ・サンマリーンながの・千曲川リバーフロントスポーツガーデン等の地域資源を活かした交流促進

・千曲川の水辺空間や田園景観を活かした観光・レクリエーション機能の充実

（照会）・農業振興や後継者育成の支援と、須坂長野東I.C.へのアクセス性を活かした産業用地整備の推進や可能性の検討

自然環境・緑・景観の方針

自然環境・緑の保全

・千曲川・犀川の河川環境の保全と生物多様性の確保

・千曲川の水辺環境における親水空間の創出と適切な維持管理

・市街地周辺及び千曲川沿いの優良農地の保全と農業生産環境の維持

景観の保全・育成

・河川沿いの良好な緑景観の保全

・千曲川沿いに広がる水田地帯の良好な田園景観の維持

防災・脱炭素の方針

防災・減災

・千曲川の河川堤防の強化と治水対策の促進

・浸水リスクを考慮した土地利用の誘導と建築規制の適切な運用

・建築物や公共施設の耐震化促進、老朽インフラの計画的な更新

・避難路となる生活道路の安全性確保と防災機能の強化

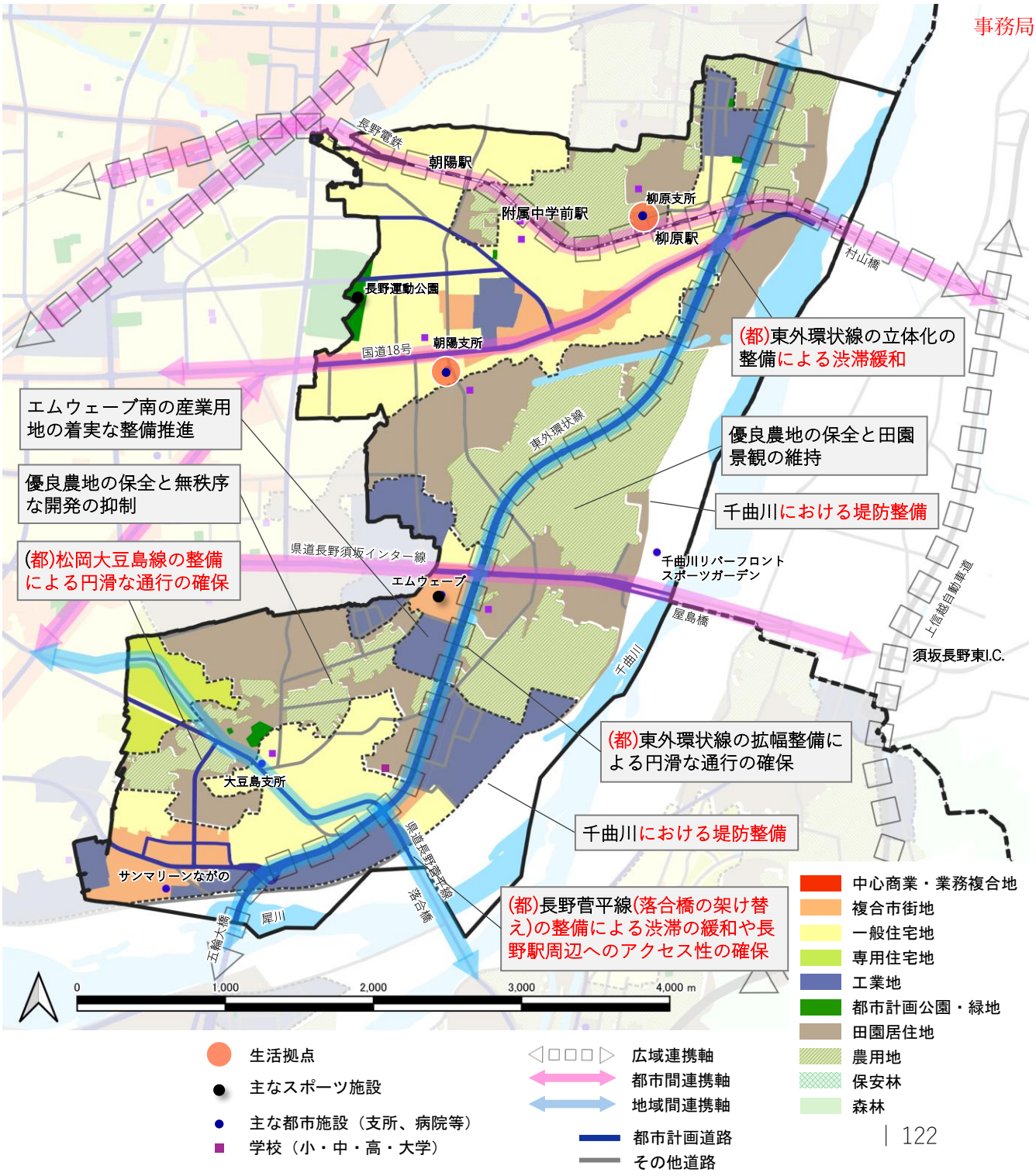
脱炭素・省エネルギー

・公共交通の利用促進による自家用車依存からの転換

・電気自動車の充電インフラの整備促進

・農地や緑地の保全と太陽光等の再生可能エネルギーの導入促進（農地・田園景観への影響に配慮した立地誘導）

■　千曲川沿川地域の整備方針図　（照会、事務局）



7　川中島・更北地域

7－1　地域の特性

(1)地勢と成り立ち

■　川中島・更北地域の位置図

川中島・更北地域は、長野市の南部に位置し、千曲川と犀川に囲まれた沖積平野の肥沃な土地に市街地と農地が広がっています。

古くから交通要衝や農業の盛んな地域として発展してきた地域であり、戦国時代の川中島合戦の舞台として知られ、川中島古戦場史跡公園周辺は歴史的に重要な場所となっています。また、北国街道沿いでは集落や農村が形成され、千曲川・犀川の水運や農業生産を支える地域として発展してきました。

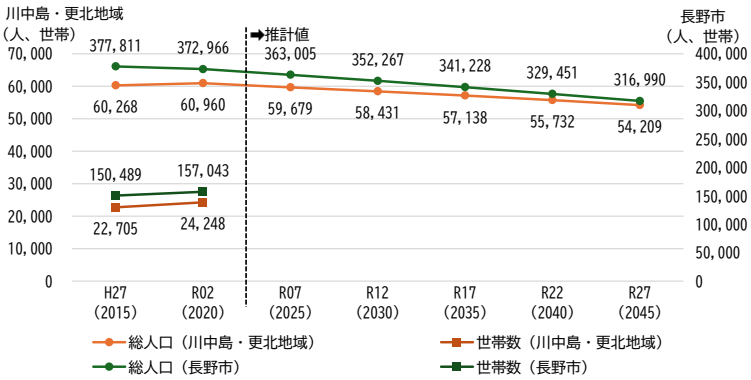
現在は、長野市南部の農業地域としての性格を維持しながら、国道18号や県道長野上田線沿道を中心に商業・業務施設が立地し、長野市南部の生活・産業拠点の一翼を担っています。主な地域資源として、千曲川・犀川の水辺空間などの自然資源、広がりのある農地や田園景観、川中島古戦場史跡公園などの歴史・観光資源があり、小学校６校・中学校３校・高等学校１校等の教育施設があります。

(2)人口動態

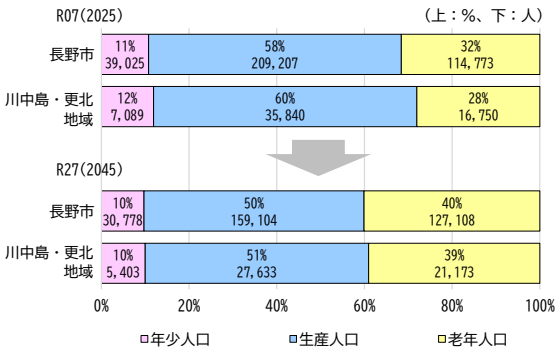
本地域の人口（2020年）は約61,000人で、長野市全体の約16％を占めています。2005年以降、人口は漸減傾向にあり、将来推計では2035年には約54,209人となり、2020年と比較して約11％減少すると見込まれています。

年齢３区分別では、年少人口（0～14歳）は12％、生産年齢人口（15～64歳）は60％、老年人口（65歳以上）は28％となっており、少子高齢化が進行しています。また、市全体と比較すると、より速いペースで高齢化が進行すると見込まれています。

■　川中島・更北地域の人口と世帯数の推移



■　川中島・更北地域の年齢別人口割合



※実績値は国勢調査、推計値は国土数値情報250mメッシュ別将来推計人口データを基に算出

(3)地域の都市構造

①拠点、軸、ゾーン

本地域の都市構造は、各地区の生活拠点を中心に川中島・更北の各地区にそれぞれコミュニティ施設が配置され、両地区の中心を通る県道長野上田線と国道19号長野南バイパス沿いに商業施設が分散的に立地する構造となっています。

国道117号　青木島交差点付近

広域連携軸は国道19号長野南バイパス及び国道18号と、JR信越本線であり、市内外とつながっています。都市間連携軸は、JR信越本線及び県道長野真田線、地域間連携軸は国道19号長野南バイパスと東外環状線（県道三才大豆島中御所線）がそれぞれに担っています。また、千曲川と犀川の堤防道路も地域間の重要な連携軸となっています。

土地利用の観点では、県道長野上田線を軸に広がりのある市街地ゾーンが形成され、また南長野運動公園の北東側にも土地区画整理事業等による市街地ゾーンがあります。市街地ゾーン周辺には農地と住宅地が混在する田園居住ゾーンが広がっており、本地域はこれら２区分からなる空間構造を形成しています。

②都市施設・交通

本地域の主な都市施設は、行政及び地域活動の拠点である「更北支所」「川中島支所」や、「長野市立博物館」などがあるほか、年間約23万人（2024年）が利用する「長野市真島総合スポーツアリーナ（ホワイトリング）」や、年間を通じて多くの観光客が訪れる「川中島古戦場史跡公園」が整備されています。また、地域内には複数の農業関連施設や直売所が点在し、地域の農業振興を支えています。

川中島古戦場史跡公園

交通面では、川中島地区はJR信越本線の「川中島駅」と「今井駅」があり、両駅の１日平均乗車人数は合わせて約3,470人（2024年）となっています。また、県道長野上田線、国道19号長野南バイパス、国道18号が地域を貫通し、路線バスが運行されています。各道路沿いには商業施設等が立地し、地域の生活を支えています。また、長野自動車道更埴I.C.や上信越自動車道長野I.C.へも比較的近く、広域的な交通利便性を有しています。

７－２　地域の課題

分野別の主な課題

土地利用

・農業従事者の高齢化と後継者不足による遊休農地や荒廃農地の増加

・田園居住地における農地の宅地化の進行

・集落内の空き家・空き地の活用と集落機能の低下

・産業立地ニーズ（更北分署周辺エリア、JR今井駅西一帯エリア）と農振農用地との整合

交通体系・経済活動

・主要幹線道路（国道117号、県道長野上田線、国道18号等）の渋滞

・地域東部の鉄道駅が立地しないことによる公共交通利便性の低さと自家用車依存

・沿道商業施設の分散立地による駅周辺の商業機能の低下

自然環境・緑・景観

・千曲川・犀川に囲まれた肥沃な農地と田園景観の保全

・河川沿いの自然環境における生物多様性の保全

・市街地内における緑の連続性の確保、水と緑のネットワーク形成

防災・脱炭素

・千曲川・犀川沿いの河川災害（洪水・浸水）への備えの必要性

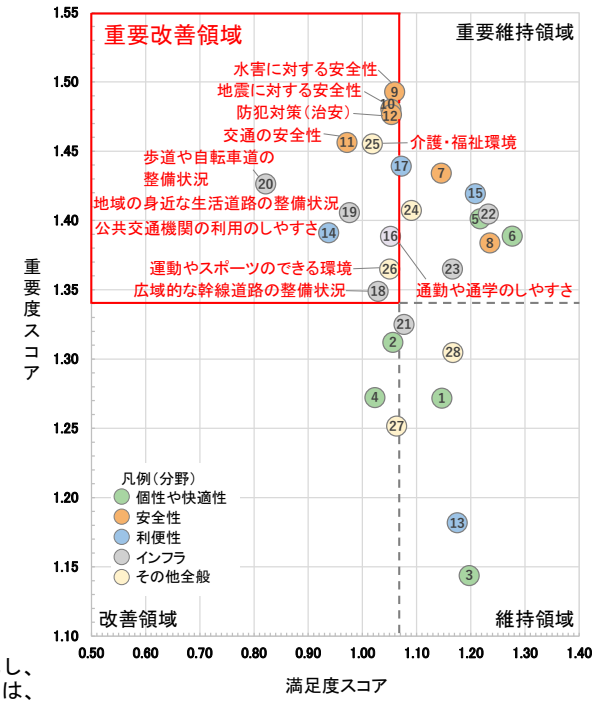
・合流地点周辺における内水氾濫リスクへの対応

(2)市民の意向

川中島・更北地域では、「水害に対する安全性」「地震に対する安全性」「防犯対策（治安）」など、安全性に関する項目の重要度が特に高い傾向がみられます。

また、「交通の安全性」「歩道や自転車道の整備状況」「公共交通機関の利用のしやすさ」「運動やスポーツのできる環境」「地域の身近な生活道路の整備状況」「介護・福祉環境」についても、改善の必要性が高く防災性や交通環境の向上に対するニーズが高い地域となっています。

■　アンケートにみる住民の認識・意向



※28項目について満足度・重要度（５段階評価）の回答を点数化し、市全体平均を基準線として４領域に区分。「重要改善領域」は、重要度が高く満足度が低い領域で、より改善の必要性が高い項目として位置づけられる。

（資料：長野市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査（令和７年））

７－３　地域の目指す姿

(1)地域のまちづくりの基本方針

川中島・更北地域は、千曲川と犀川の間の肥沃な農地と市街地が共存し、長野市南部の農業・生活拠点として発展してきた地域として、以下の方針でまちづくりを進めます。

●駅周辺の交通結節機能の強化と地域拠点の活性化

川中島駅・今井駅周辺の交通結節機能の強化と生活利便機能の強化を図るとともに、川中島古戦場史跡公園などの歴史・観光資源と連携した魅力ある地域づくりを目指します。

●幹線道路沿いの発展と公共交通の最適化による持続可能な都市構造の形成

県道長野上田線及び国道19号バイパス沿道を中心とした商業・業務機能の維持・向上を図るとともに、地域東部における公共交通利便性の維持・確保を図ります。（照会）

●水と緑に囲まれた田園環境と調和した地域づくり

千曲川・犀川の河川環境と広がりのある優良農地の一体的な保全を進め、田園環境の維持を図ります。また、千曲川・犀川沿いの水害対策と流域治水の推進により、安全・安心な居住環境を確保し、自然環境と調和した地域を目指します。

(2)都市づくりの目標別の方向性

目標１　豊かな自然と歴史文化を大切にする地域づくり

・千曲川・犀川の水辺空間の保全と生物多様性の確保
・広がりのある優良農地の保全と良好な田園景観の維持
・川中島合戦をはじめとする歴史文化資源の保全・活用と観光振興
・市街地内における緑の連続性の確保と緑豊かな居住環境の形成

目標２　暮らしやすい生活基盤と経済活動を支える地域づくり

・主要幹線道路沿道を中心とした既存商業・業務機能の維持・向上と渋滞対策の推進
・川中島駅・今井駅周辺の交通結節機能と路線バスの最適化による交通環境の向上
・歩行者・自転車の安全で快適な移動環境の整備
・農業関連施設や直売所等の充実による地産地消の推進と農業振興

目標３　誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

・千曲川・犀川の水害対策の強化と流域治水の推進
・建築物や公共施設の耐震化、老朽インフラの計画的な更新
・自家用車依存からの転換と公共交通の利用促進による脱炭素社会への対応（照会）
・高齢者や子育て世代の日常生活を支える生活利便施設の適正配置

7－4　分野別の整備方針

土地利用の方針

・主要幹線道路沿いにおける無秩序な開発の抑制と計画的な土地利用の誘導

・広がりのある優良農地の保全と遊休農地・荒廃農地の発生抑制

・農振農用地との整合を図りながらの産業立地の可能性検討

・集落内の空き家・空き地対策と集落機能の維持

交通体系・経済活動の方針

交通体系

(照会)

・地域東部における路線バスの充実や乗合タクシーの最適化による公共交通利便性の向上

・主要幹線道路（県道長野上田線、国道18号等）の渋滞対策

・東外環状線や千曲川・犀川の堤防道路等の地域間連携軸の機能強化

・歩道や自転車道の整備によるバリアフリーで安全・快適な移動環境の整備

経済活動

・川中島駅・今井駅周辺のウォーカブルなまちづくりの推進と生活利便機能の誘導

・主要幹線道路沿道を中心とした商業・業務機能の維持・向上

・農業関連施設や直売所の充実による地産地消の推進と農業振興

・川中島古戦場史跡公園やホワイトリング等の地域資源を活かした観光振興と交流促進

自然環境・緑・景観の方針

自然環境・緑の保全

・千曲川・犀川の河川環境とまとまりのある農地の一体的な保全による自然環境の維持

・市街地内における緑の連続性の確保と緑豊かな居住環境の形成

景観の保全・育成

・広がりのある農地と田園景観の保全・育成

・北国街道沿いの歴史的な風情の継承

防災・脱炭素の方針

防災・減災

・千曲川・犀川の河川改修促進と流域治水の推進による水害対策の強化

・浸水想定区域における警戒避難体制の整備と防災意識の向上

・建築物や公共施設の耐震化促進、老朽インフラの計画的な更新

・避難路となる生活道路の安全性確保と防犯対策（治安）の強化

脱炭素・省エネルギー

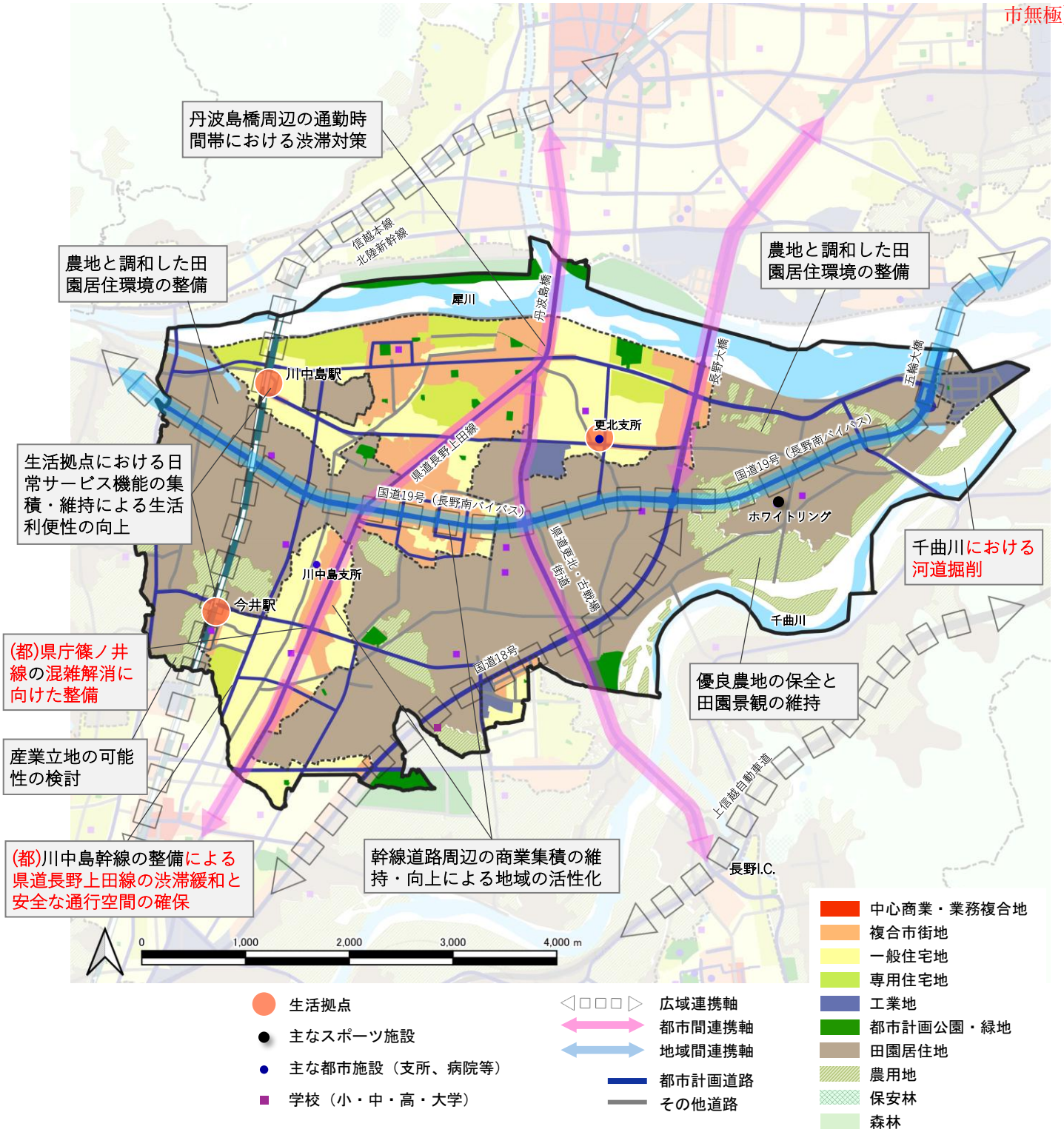
・公共交通の利用促進による自家用車依存からの転換　（照会）

・鉄道の利用促進と駅周辺のパーク＆ライド機能の強化

・電気自動車の充電インフラの整備促進

・太陽光等の再生可能エネルギーの導入促進（農地・田園景観への影響に配慮した立地誘導）

■　川中島・更北地域の整備方針図　（照会、市無極）



8　篠ノ井地域

8－1　地域の特性

(1)地勢と成り立ち

■　篠ノ井地域の位置図

篠ノ井地域は、長野市の南部に位置し、市域の南の玄関口を形成しています。東側は千曲川沿いの標高330～380m程度の平坦地、西側は茶臼山（標高約700m）を含む丘陵地となっており、平野部から中山間地まで多様な地形を有しています。

古くから交通の要衝として発展してきた地域であり、江戸時代には北国街道と北国西往還が分岐する篠ノ井追分（現在の塩崎地区）が宿場的な役割を果たしていました。明治時代には信越本線篠ノ井駅が開業し、長野・松本・上田の三方面へ分岐する鉄道の連結点となりました。1966年（昭和41年）に長野市と合併し、現在に至っています。

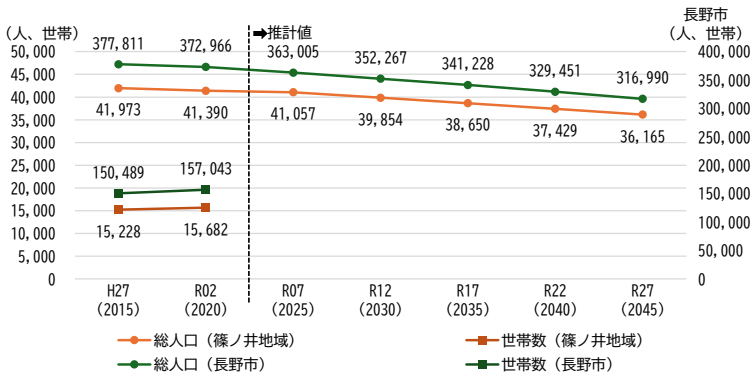
現在は、篠ノ井駅を中心とした市街地が、長野市南部の都市拠点としての役割を担っています。主な地域資源として、千曲川の水辺空間などの自然資源、篠ノ井追分の歴史資源、茶臼山公園・南長野運動公園などの公園施設があります。特に公園施設には県内外から多くの来訪者を集める広域的な集客拠点となっています。また、厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院等の医療施設、小学校６校・中学校２校・高等学校３校等の教育施設があります。

(2)人口動態

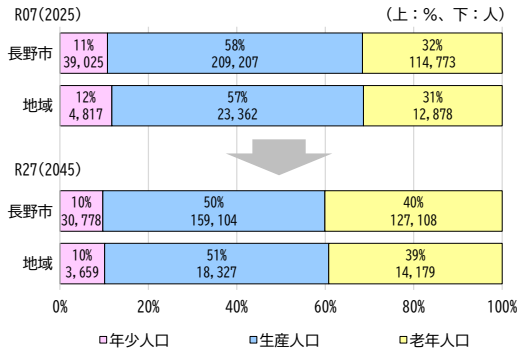
篠ノ井地域の人口（2020年）は約41,400人で、長野市全体の約11%を占めています。2005年以降、人口は漸減傾向にあり、将来推計によると、2035年には約38,600人と2020年と比較して約7%減少すると見込まれています。

年齢３区分別では、年少人口（0～14歳）は12%、生産年齢人口（15～64歳）は57%、老年人口（65歳以上）は31%となっており、少子高齢化が進行しています。また、市全体と比較すると、やや緩やかなペースで高齢化率の上昇が見込まれています。

■　篠ノ井地域の人口と世帯数の推移



■　篠ノ井地域の年齢別人口割合



※実績値は国勢調査、推計値は国土数値情報250mメッシュ別将来推計人口データを基に算出

(3)地域の都市構造

①拠点、軸、ゾーン

本地域の都市構造は、篠ノ井駅周辺を都市拠点とし、駅周辺には都市施設が集積し、駅東口を中心に商業地が広がっています。茶臼山公園は自然観光エリアとして、県内外から多くの人が訪れています。

広域連携軸は国道18号、上信越自動車道及び長野自動車道で、更埴I.C.に近く高速道路へのアクセス性に優れています。都市間連携軸は、JR・しなの鉄道と、商業施設が集積する県道長野上田線が担っています。

篠ノ井駅西口から茶臼山方面を望む

土地利用の観点では、篠ノ井駅および稲荷山駅周辺に市街地ゾーンが形成され、その周辺の平野部には農地や集落からなる田園居住ゾーンが広がっています。さらに、西側の山間部には森林や農地、点在する集落からなる中山間ゾーンが広がっており、本地域はこれら３区分からなる空間構造を形成しています。

②都市施設・交通

本地域の主な都市施設は、篠ノ井駅を中心とした市街地に集積しており、行政および地域活動の拠点である「篠ノ井総合市民センター」をはじめ、「市立南部図書館」や「厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院」が立地しています。また、地域東側には、野球場、サッカー場、体育館、プール、テニスコート等を備えた「南長野運動公園」が整備されており、年間約31万人（2022年度）が利用しています。

南長野運動公園から
篠ノ井駅方面を望む

一方、西側の山麓部には、茶臼山公園が立地しており、特に動物園は年間約25万人（2023年度）が来園するなど、観光・レクリエーション資源として重要な役割を担っています。

交通面では、篠ノ井駅（JR・しなの鉄道）および稲荷山駅（JR）が立地し、篠ノ井駅の1日平均乗車人員は約8,200人（2024年）となっています。これらの鉄道と並行して県道長野上田線が通過しているほか、地域東側には国道18号が通り、広域交通の主要軸を形成しています。さらに、市東部に位置する上信越自動車道長野I.C.や千曲市に位置する長野自動車道更埴I.C.へのアクセスにも優れており、広域的な交通利便性が高い地域となっています。

８－２　地域の課題

(1)分野別の主な課題

土地利用

・農業従事者の高齢化と後継者不足による遊休農地や荒廃農地の増加

・市街地の無秩序な拡大（スプロール）と農地の宅地化の進行

・市街地内の空き家・低未利用地の増加と土地利用の低密度化

・西部中山間地における森林の適正な管理

・産業立地ニーズ（小松原エリア、南長野運動公園北一帯エリア）と農振農用地との整合

交通体系・経済活動

・主要幹線道路（県道長野上田線等）の渋滞、公共交通の不足

・都市施設（南長野運動公園、茶臼山公園等）へのアクセス性の不足

・篠ノ井駅周辺の商業機能の低下

自然環境・緑・景観

・市街地周辺のまとまりのある農地や田園景観の保全

・千曲川や茶臼山等の自然環境における生物多様性の保全

・市街地内における緑の連続性の確保、水と緑のネットワーク形成

防災・脱炭素

・西側山間部の土砂災害、千曲川沿いの河川災害への備え

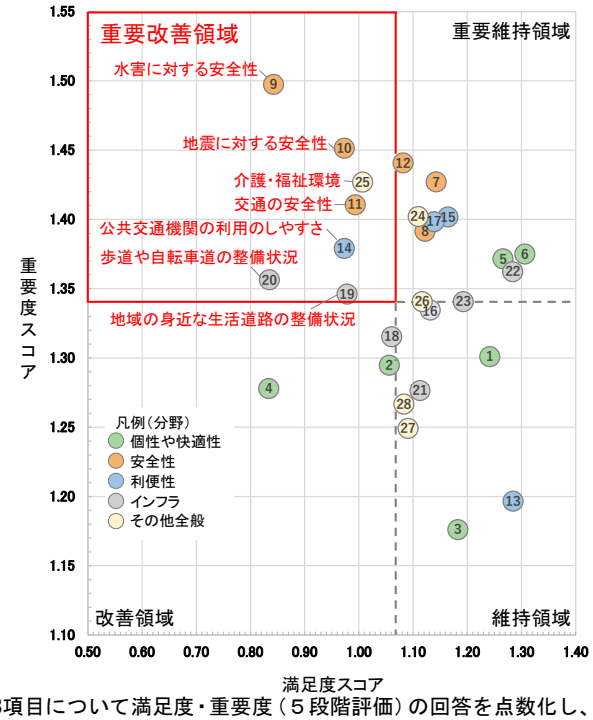
・駅から離れたエリアや中山間地における自家用車依存からの転換

(2)市民の意向

篠ノ井地域では、防災、交通、福祉に関連する項目が重要改善領域に位置し、特に「水害に対する安全性」「地震に対する安全性」「介護・福祉環境」「交通の安全性」「公共交通機関の利用のしやすさ」「歩道や自転車道の整備状況」「地域の身近な生活道路の整備状況」について、重要度が高い一方で満足度が低い状況です。

市全体と比較すると各項目の傾向は同様ですが、篠ノ井地域では特に「水害に対する安全性」の重要度が高く満足度が低くなっています。また、「街としてのにぎわい」の満足度も低く、駅周辺の活性化に向けた取組が必要です。

■　アンケートにみる住民の認識・意向



※28項目について満足度・重要度（５段階評価）の回答を点数化し、市全体平均を基準線として４領域に区分。「重要改善領域」は、重要度が高く満足度が低い領域で、より改善の必要性が高い項目として位置づけられる。

（資料：長野市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査（令和７年））

８－３　地域の目指す姿

(1)地域のまちづくりの基本方針

篠ノ井地域は、長野駅周辺に次ぐ規模の市街地を有し、国道18号で千曲市と結ばれる長野市の南の玄関口で、北国街道の要衝として旅人が行き交った篠ノ井追分の歴史と千曲川・茶臼山の豊かな自然をあわせもつ地域として、以下の方針でまちづくりを進めます。

●駅周辺の拠点機能の強化

郊外型店舗の立地により低下した篠ノ井駅周辺の商業活力を再生するため、歩きやすいまちづくりや公共交通の利便性向上により、にぎわいと都市機能の再生を目指します。

●持続可能な都市構造の形成

市街地では良好な居住環境の整備とアクセス性の向上を図り、都市機能誘導区域を中心としたコンパクトな都市構造を形成します。

●自然環境と調和した地域づくり

農地の保全と西部中山間地の自然環境・生活環境の保全を進め、緑豊かでにぎわいのある地域を目指します。

(2)都市づくりの目標別の方向性

目標１　豊かな自然と歴史文化を大切にする地域づくり

・千曲川・茶臼山等の自然環境の保全と生物多様性の確保
・農地の保全と良好な田園景観の維持
・南長野運動公園・茶臼山公園の機能強化と活用促進
・篠ノ井追分等の北国街道にかかわる歴史文化資源の保全・活用

目標２　暮らしやすい生活基盤と経済活動を支える地域づくり

・篠ノ井駅周辺への都市機能の集積とにぎわいの創出
・都市機能誘導区域を中心としたコンパクトな市街地形成
・幹線道路の渋滞対策と公共交通の利便性向上
・歩行者・自転車の安全で快適な移動環境の整備

目標３　誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

・千曲川の水害対策と土砂災害対策の推進
・建築物や公共施設の耐震化、老朽インフラの計画的な更新
・公共交通の利用促進や電気自動車の充電インフラ整備による脱炭素社会への対応　（照会）
・高齢者や子育て世代の日常生活を支える生活利便施設の配置と移動環境の整備

８－４　分野別の整備方針

土地利用の方針

・篠ノ井駅西口の低未利用地の有効活用、都市機能誘導施設の立地促進

・都市機能誘導区域を中心としたコンパクトな市街地形成

・優良農地の保全と遊休農地等の多面的利用の促進

・中山間地域における集落の核となる小拠点の整備

・農振農用地との整合を図りながらの産業立地の可能性検討

交通体系・経済活動の方針

交通体系

（照会）・乗合タクシーやバス路線の最適化、篠ノ井駅の交通結節機能の強化

・幹線道路の渋滞対策（国道18号、県道長野上田線、川中島幹線等）

・バリアフリーな歩行空間の整備、駅周辺の歩行者動線の強化

経済活動

・駅周辺への店舗・サービス機能の誘導による商業活性化とにぎわいの創出

・茶臼山公園等の地域資源を活かした交流促進

・南長野運動公園を活かしたスポーツ・観光・商工業・農業等の複合型産業拠点の形成

・体験農園や６次産業化による農業振興

自然環境・緑・景観の方針

自然環境・緑の保全

・西部中山間地域の森林の適切な管理と生物多様性の確保

・千曲川の河川環境の保全

・市街地周辺及び千曲川沿いの農地の保全

・千曲川や茶臼山等を核とした水と緑のネットワーク形成

景観の保全・育成

・善光寺平の眺望景観、田園景観、里山風景の保全

・北国街道等の歴史的景観の継承

防災・脱炭素の方針

防災・減災

・千曲川・岡田川の河川改修促進、内水氾濫対策の強化

・土砂災害警戒区域等における警戒避難体制の整備と対策の推進

・建築物の耐震化促進、避難路となる生活道路の安全性確保

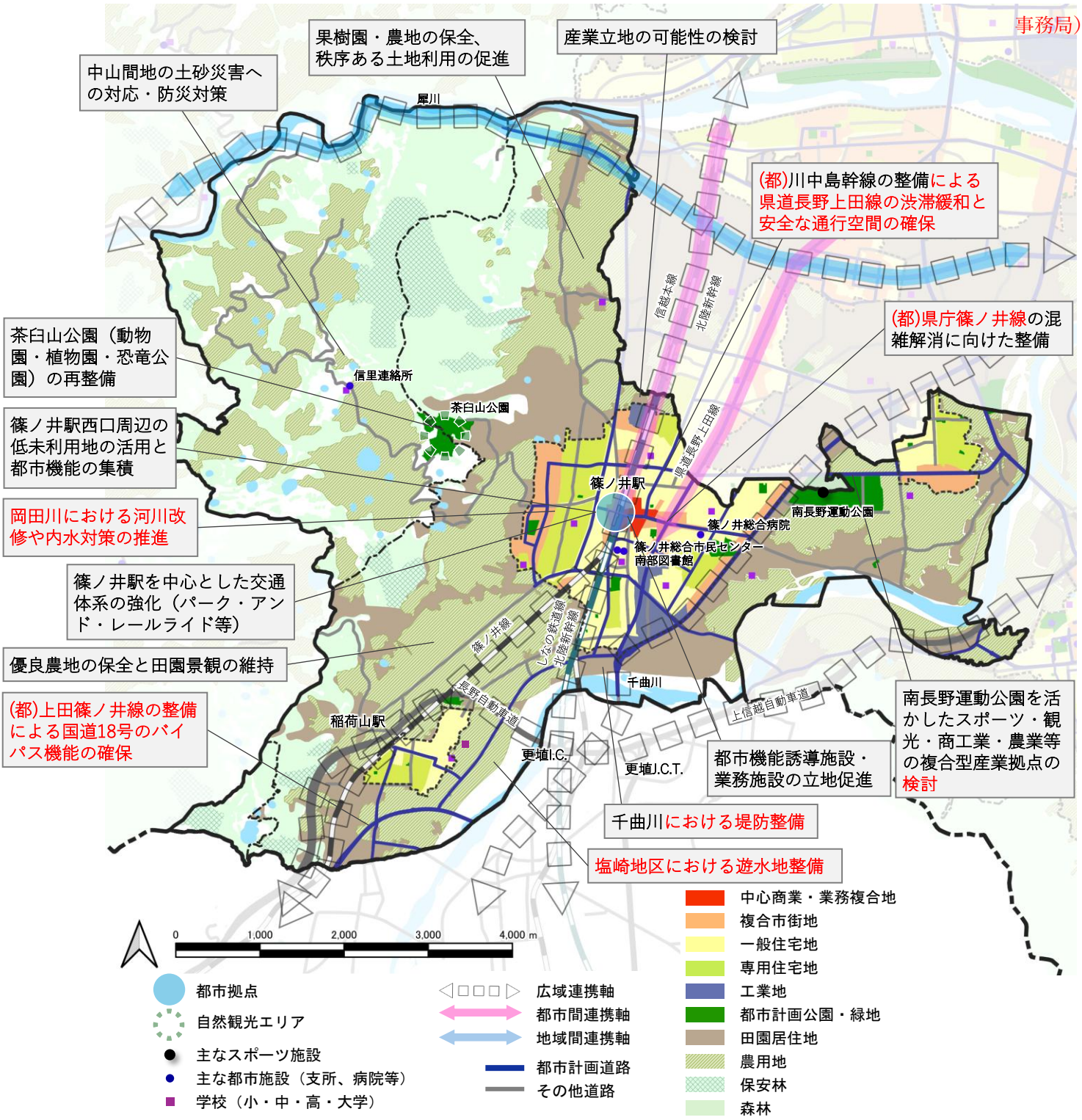
脱炭素・省エネルギー

・公共交通の利用促進による低炭素型都市構造の形成

・電気自動車の充電インフラの整備促進

・森林・水・太陽光等の地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入促進（西部の中山間地の景観・農地への影響に配慮した立地誘導）

■　篠ノ井地域の整備方針図　（照会、事務局）



9　松代・若穂地域

9－1　地域の特性

(1)地勢と成り立ち

■　松代・若穂地域の位置図

松代・若穂地域は、長野市の南東部に位置し、北西側は千曲川沿いの平坦地、南東側は皆神山や菅平高原の裾野を含む山地や中山間地と多様な地形を有しています。

古くから交通・文化の要衝として発展してきた地域であり、江戸時代には真田十万石の城下町として栄えました。武家屋敷や寺社、歴史的街並みが現在も数多く残されており、長野市を代表する歴史文化資源となっています。松代町・若穂町は、1966年（昭和41年）に長野市と合併し、現在に至っています。

現在は、松代地区を中心に歴史・文化を活かした観光・交流機能を有するとともに、若穂地区では豊かな農地と田園環境を活かした農業生産が行われています。主な地域資源として、松代城跡・真田邸・文武学校・江戸時代から続く水路網・大室古墳群などの歴史文化資源、皆神山や千曲川などの自然資源、厚生連長野松代総合病院等の医療施設、小学校８校・中学校２校・高等学校１校等の教育施設があります。また、地域内にすでにある上信越自動車道長野I.C.に加え、(仮称)若穂スマートI.C.の整備も進めており、広域交通の利便性がさらに高まることが期待されています。

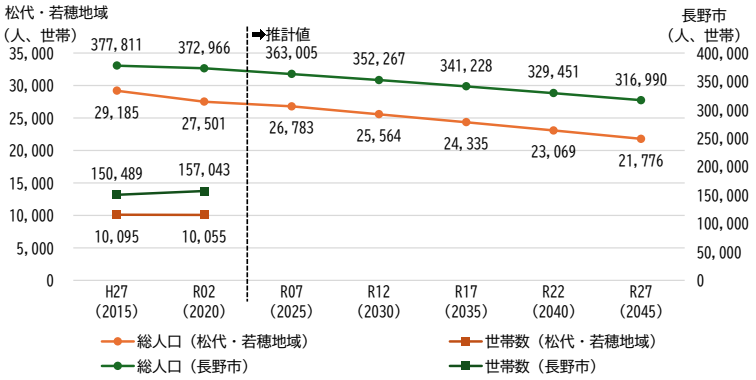
（照会）

(2)人口動態

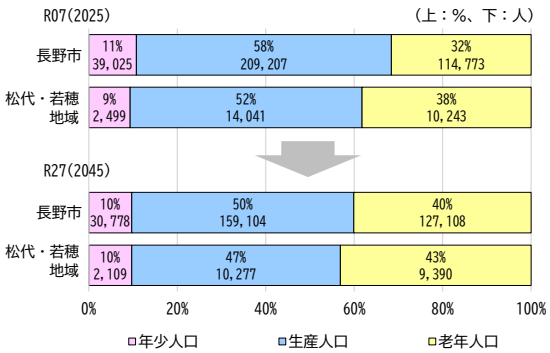
本地域の人口（2020年）は約27,500人で、長野市全体の約７％を占めています。2005年以降、人口は漸減傾向にあり、将来推計では2035年には約24,300人となり、2020年と比較して約12％減少すると見込まれています。

年齢３区分別では、年少人口（0～14歳）は９％、生産年齢人口（15～64歳）は52％、老年人口（65歳以上）は38％となっており、少子高齢化が進行しています。市全体と比較すると、老年人口割合は高い状況にある一方、高齢化率の上昇は緩やかになると見込まれています。

■　松代・若穂地域の人口と世帯数の推移



■　松代・若穂地域の年齢別人口割合



※実績値は国勢調査、推計値は国土数値情報250mメッシュ別将来推計人口データを基に算出

(3)地域の都市構造

①拠点、軸、ゾーン

松代地区の歴史的な街並み

本地域の都市構造は、松代地区の中心部を都市拠点とし松代城跡周辺を歴史文化観光エリアとして位置づけています。松代城跡周辺には歴史文化施設や観光施設、公共施設等が集積し、松代城跡のほか、真田邸や文武学校などの史跡には、県内外から多くの観光客が訪れています。

広域連携軸を担う上信越自動車道及び国道403号と、中心市街地と長野I.C.を結ぶ都市間連携軸の結節点にあたり、高速道路へのアクセス性に優れています。その他にも県道長野真田線や県道長野菅平線などが長野市中心部や上田市との連携を支えています。

土地利用の観点では、松代地区中心部に市街地ゾーンが形成され、その周辺や千曲川沿いの平坦部には農地や集落からなる田園居住ゾーン、南東側の山間部には森林や農地、点在する集落からなる中山間ゾーン、さらに奥地には森林・自然公園ゾーンが広がっています。本地域はこれら４区分からなる空間構造を形成しています。

②都市施設・交通

若穂地区の自転車歩行者専用道路　（照会）

本地域の主な都市施設は、松代地区の中心部に集積しており、行政及び地域活動の拠点である「松代支所」をはじめ、「松代文化ホール」や地域医療を担う「厚生連長野松代総合病院」が立地しています。また、歴史文化施設として、「真田宝物館」「真田邸」「文武学校」などが集積し、周辺には国指定史跡「大室古墳群」などの文化資源や「象山地下壕」、「松代温泉」などの観光資源もあり、年間を通じて160万人以上（2024年）が訪れています。

交通面では、路線バスが松代地区と長野駅を結んでおり、地域住民の主要な公共交通手段となっています。道路網としては、県道長野真田線や県道長野菅平線が地域と中心市街地を結び、国道403号が千曲川に沿って地域を縦断して須坂市方面へと接続しています。地域の広域交通としては、上信越自動車道長野I.C.や長野自動車道更埴I.C.へのアクセスが可能で、令和12年度中の開業を目指す(仮称)若穂スマートI.C.の整備により、広域交通のさらなる利便性の向上が見込まれます。

９－２　地域の課題

(1)分野別の主な課題

土地利用

（照会）

・歴史的市街地における武家屋敷などの歴史的景観の喪失

・農業従事者の高齢化と後継者不足による遊休農地や荒廃農地の増加

・中山間地における森林の適正な管理

・(仮称)若穂スマートI.C.周辺の産業立地ニーズと農振農用地の整合

交通体系・経済活動

・鉄道がないことによる公共交通利便性の不足や路線維持の困難

・国道403号等の幹線道路における狭隘区間や未整備区間による交通の支障

・松代地区中心部の商業機能の低下と歴史文化施設への二次交通の不便さ

自然環境・緑・景観

・千曲川沿いや若穂地区のまとまりのある農地の維持・継承

・皆神山や奇妙山等の自然環境における生物多様性の保全

・歴史的な建物等の保全・管理不足による歴史的街並みの喪失

防災・脱炭素

・南東側山地部の土砂災害リスクや千曲川沿いの河川災害リスクへの対応

・歴史的建造物の防災対策と保全の両立

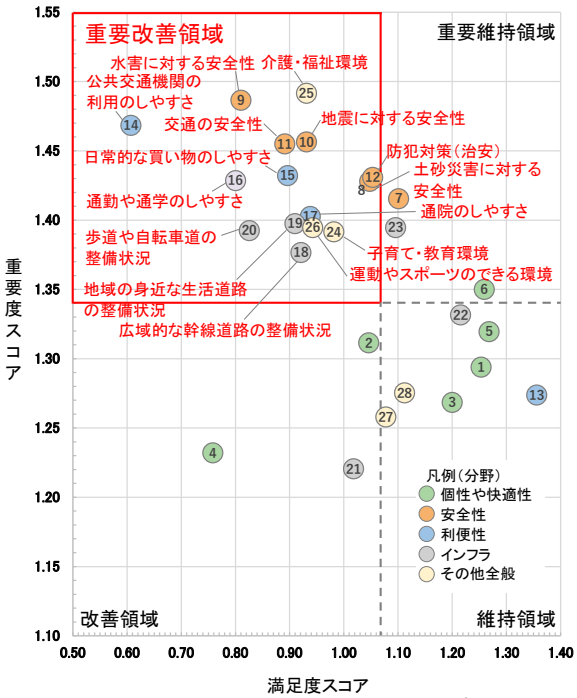
(2)市民の意向

松代･若穂地域では、「水害に対する安全性」「公共交通機関の利用のしやすさ」「交通の安全性」「介護・福祉環境」「日常的な買い物のしやすさ」などについて、重要度が高い一方で満足度が低い傾向がみられます。

また、「地震に対する安全性」「防犯対策（治安）」「土砂災害に対する安全性」や、「歩道や自転車道の整備状況」「地域の身近な生活道路の整備状況」についても、改善の必要性が高い傾向がみられ、防災性の向上と生活利便性の確保が求められています。

※28項目について満足度･重要度（５段階評価）の回答を点数化し、市全体平均を基準線として４領域に区分。「重要改善領域」は、重要度が高く満足度が低い領域で、より改善の必要性が高い項目として位置づけられる。

■　アンケートにみる住民の認識・意向



（資料：長野市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査（令和７年））

９－３　地域の目指す姿

(1)地域のまちづくりの基本方針

松代・若穂地域は、真田十万石の城下町として栄えた歴史と豊かな自然・田園環境に恵まれた長野市南東部の拠点で、長野I.C.に近接するとともに(仮称)若穂スマートI.C.の開業により広域交通の利便性向上が期待される地域として、以下の方針でまちづくりを進めます。

●歴史文化を活かした交流拠点の形成

松代城跡周辺の歴史文化的な資源を活かし磨き上げ、交流人口の更なる増加と地域のにぎわい創出を目指します。　(照会)

●安全で利便性の高い生活環境の整備

防災対策の強化により、誰もが安心して暮らし続けられる生活環境の形成を目指します。

●地域資源を活かした持続可能な地域づくり

千曲川沿いや若穂地区の農地を保全し、農業振興と田園景観の維持を図るとともに、中山間地の自然環境との調和を図りながら、多様な地形を活かした持続可能な地域を目指します。

(2)都市づくりの目標別の方向性

目標１　豊かな自然と歴史文化を大切にする地域づくり

・松代城跡・真田邸・文武学校・大室古墳群等の歴史文化施設の保全と活用促進
・武家屋敷や寺社等の歴史的街並みと景観の保全
・千曲川・皆神山・奇妙山等の自然環境の保全と生物多様性の確保
・若穂地区の果樹園や千曲川沿いの農地保全と良好な田園景観の維持

目標２　暮らしやすい生活基盤と経済活動を支える地域づくり

・松代地区中心部への商業・生活サービス機能の維持・充実
・歴史文化施設の充実と観光周遊環境の整備等による観光振興
・長野I.C.・(仮称)若穂スマートI.C.周辺の広域交通利便性を活かした適切な土地利用の誘導
・路線バス等の公共交通の最適化と主要幹線道路の渋滞対策による移動利便性の向上

目標３　誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

・千曲川沿いの水害対策と南東側山地部の土砂災害対策の推進
・歴史的建造物の防災対策と保全の両立
・公共交通の利用促進や自家用車依存からの転換による脱炭素社会への対応　(照会)
・高齢者や子育て世代の日常生活を支える買い物環境や介護・福祉環境の充実

９－４　分野別の整備方針

土地利用の方針

・松代地区中心部の歴史的市街地における空き家・低未利用地の活用促進

・(仮称)若穂スマートI.C.周辺における農振農用地とも整合を図りながらの産業立地等の可能性の検討

・千曲川沿いや若穂地区の優良農地の保全と遊休農地・荒廃農地の解消

・中山間地域における集落の核となる小拠点の整備と森林の適切な管理

交通体系・経済活動の方針

交通体系

・路線バスや乗合タクシー等の公共交通の最適化による利便性向上

・松代地区中心部と歴史文化施設を結ぶ交通手段の確保

・幹線道路の狭隘区間・未整備区間の整備による交通の安全性と円滑化の確保

・バリアフリーな歩行空間の整備と歩道・自転車道の整備推進

・地域の身近な生活道路の安全性確保と計画的な維持管理

経済活動

・松代地区中心部のウォーカブルなまちづくりの推進と商業・生活サービス機能の維持

・歴史文化施設の魅力向上と観光周遊環境の整備による観光振興

・農業の担い手育成・支援と６次産業化による農業振興

自然環境・緑・景観の方針

自然環境・緑の保全

・南東側山地部（皆神山・奇妙山等）の森林の適切な管理と生物多様性の確保

・千曲川の河川環境の保全

景観の保全・育成

・千曲川沿いや若穂地区の農地・田園景観と中山間地の里山風景の保全

・松代城跡周辺の歴史的街並みや武家屋敷等の歴史的景観の保全・継承

防災・脱炭素の方針

防災・減災

・千曲川の河川改修促進と水害対策の強化

・南東側山地部における土砂災害警戒区域等の警戒避難体制の整備と対策の推進

・歴史的建造物の防災対策と保全の両立

・避難路となる生活道路の安全性確保

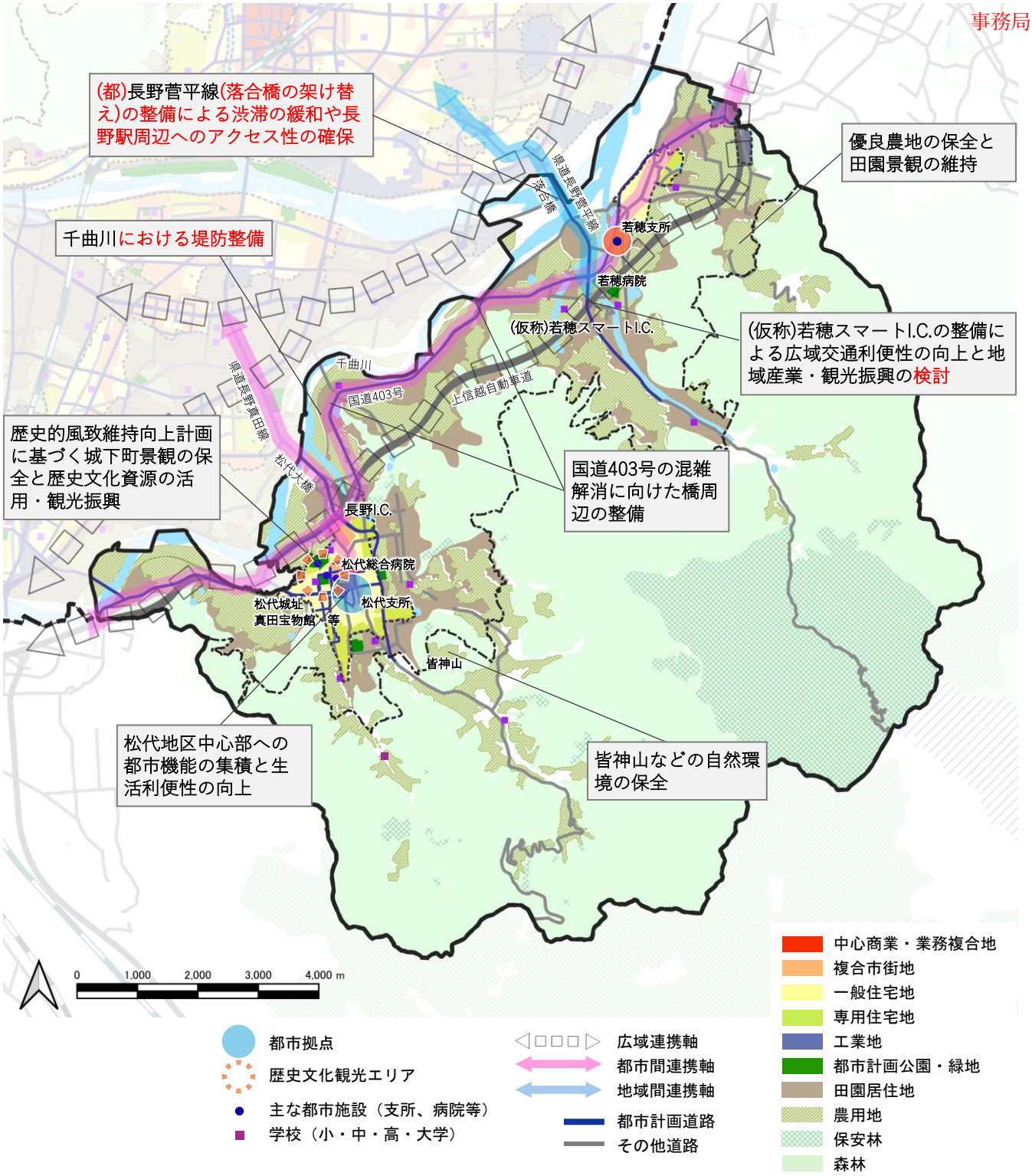
脱炭素・省エネルギー

・公共交通の利用促進による自家用車依存からの転換

・電気自動車の充電インフラの整備促進

・森林・農地・太陽光等の地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入促進と歴史的景観・農地への影響に配慮した立地誘導

■　松代・若穂地域の整備方針図　（照会、事務局）



10　北西部中山間地域

10－１　地域の特性

(1)地勢と成り立ち

■　中山間地域の位置図

中山間地域は、長野市の西～北西部一帯に広がり、山岳地帯から中山間地まで、起伏に富んだ多様な地形を有しています。戸隠連峰や飯縄山などの山々に囲まれ、裾花川、犀川などの河川が流れる豊かな自然環境と独自の風土を形成しています。

古くから山間地の生活文化が育まれてきた地域であり、戸隠神社の門前町として栄えた戸隠地区をはじめ、鬼無里や信州新町、中条では交易拠点としての歴史を有します。小田切、芋井、七二会、信更、大岡などの地域も、それぞれの地形と気候を活かした農林業を中心に地域を形成してきました。昭和40年代～平成にかけて順次長野市と合併し、現在に至っています。

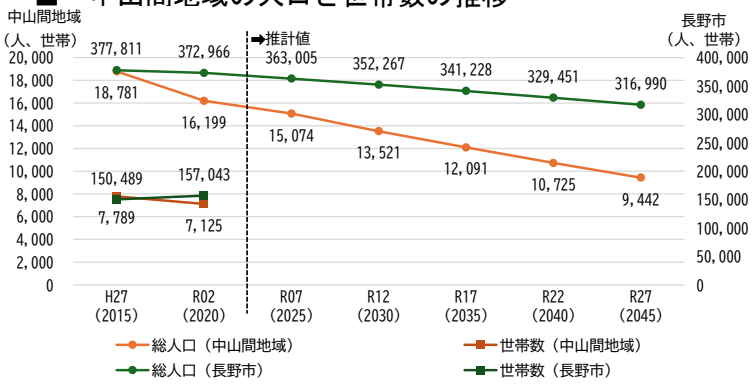
現在は、豊かな自然環境や観光資源を求めて、四季を通じ多くの観光客が訪れています。主な地域資源として、戸隠神社や奥裾花渓谷などの歴史・自然的な観光資源、スキー場やキャンプ場等のレクリエーション施設、農産物直売所や温泉施設などの交流拠点があります。また、小中学校や支所等が各地区に配置され、地域コミュニティの維持が図られています。

(2)人口動態

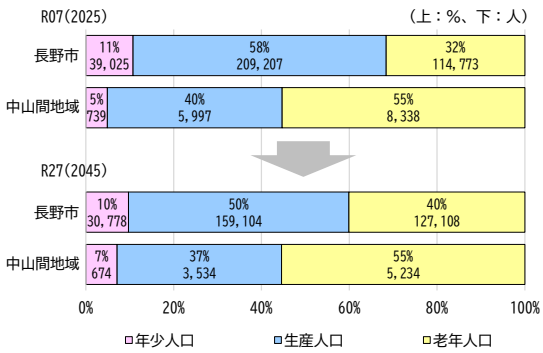
本地域の人口（2020年）は約16,200人で、長野市全体の約４％を占めています。2005年以降、人口減少が続いており、将来推計では2035年には約12,000人となり、2020年と比較して約25％減少すると見込まれています。

年齢３区分別では、年少人口（0～14歳）は５％、生産年齢人口（15～64歳）は40％、老年人口（65歳以上）は55％となっており、少子高齢化と人口減少が進行しています。また、市全体と比較すると、老年人口割合は既に高い水準にあり、今後は老年人口を含め各年代で人口減少が進むと見込まれます。

■　中山間地域の人口と世帯数の推移



■　中山間地域の年齢別人口割合



※実績値は国勢調査、推計値は国土数値情報250mメッシュ別将来推計人口データを基に算出

(3)地域の都市構造

①拠点、軸、ゾーン

本地域の都市構造は、各地区の支所周辺を生活中心地とし、その周辺には生活に必要な公共施設、商業施設、医療・福祉施設などが立地しています。

広域連携軸は国道19号、県道長野大町線であり、松本方面や白馬・大町方面とつながっています。また、地域間連携軸は、広域連携軸のほかに鬼無里を通る国道406号と戸隠を通る県道戸隠高原浅川線などがあり、中心市街地と各地区を結んでいます。

大岡地区の集落（弘崎米田和）と北アルプス

土地利用の観点では、大部分が中山間ゾーンとなります。また、妙高戸隠連山国立公園や聖山高原県立公園が森林・自然公園ゾーンとなり、戸隠山をはじめ奥裾花自然園や聖山高原など自然豊かな観光地として多くの人が訪れています。また、飯綱都市計画区域は高原住宅ゾーンとして、豊かな自然と調和した高原ならではの土地利用が図られています。本地域はこれら３区分からなる空間構造を形成しています。

②都市施設・交通

本地域の主な都市施設は、各地区の支所周辺や集落拠点に分散配置されており、行政および地域活動の拠点である各支所や交流センターをはじめ、診療所、郵便局等の生活に必要な施設が立地しています。

戸隠地域には「戸隠地質化石博物館」や「戸隠民俗館・戸隠流忍法資料館」、信州新町地域には「信州新町美術館」や「信州新町化石博物館」、鬼無里地域には「鬼無里ふるさと資料館」などの文化施設が整備されています。 また、戸隠スキー場などのウィンタースポーツ施設、戸隠キャンプ場や飯綱高原などのアウトドア・レクリエーション施設が整備されており、四季を通じて多くの観光客が訪れています。特に、戸隠神社は年間約100万人以上が参拝する県内有数の観光・信仰の拠点となっています。

戸隠神社奥社参道の杉並木

交通面では、主に路線バスと自家用車が移動手段となっています。国道19号と県道長野大町線が信州新町・大岡・中条方面、国道406号と県道戸隠高原浅川線が戸隠・鬼無里方面と中心市街地を結んでいるほか、その他県道や市道がの集落や近隣市町村と繋がっています。冬季には積雪により交通条件が厳しくなる地域もあり、除雪体制の維持が重要となっています。 （照会）

10－２　地域の課題

(1)分野別の主な課題

土地利用

・農業従事者の高齢化と後継者不足による遊休農地・荒廃農地の増加

・集落における空き家の増加と居住人口の減少

・森林の適正な管理と林業の担い手不足

交通体系・経済活動

・公共交通（路線バス）の利用者減少と路線維持の困難化

・冬季における道路交通の確保と除雪体制の維持

・商業機能の衰退と日常生活サービスの維持

自然環境・緑・景観

・棚田や農村景観、伝統的集落景観の保全と継承

・戸隠連峰、飯縄山、奥裾花自然園等の豊かな自然環境と生物多様性の保全

・歴史的・文化的資源（戸隠神社、鬼女紅葉伝説等）の保全と活用

防災・脱炭素

・急傾斜地や土砂災害警戒区域等における土砂災害への備え

・犀川や裾花川等の河川災害への備え

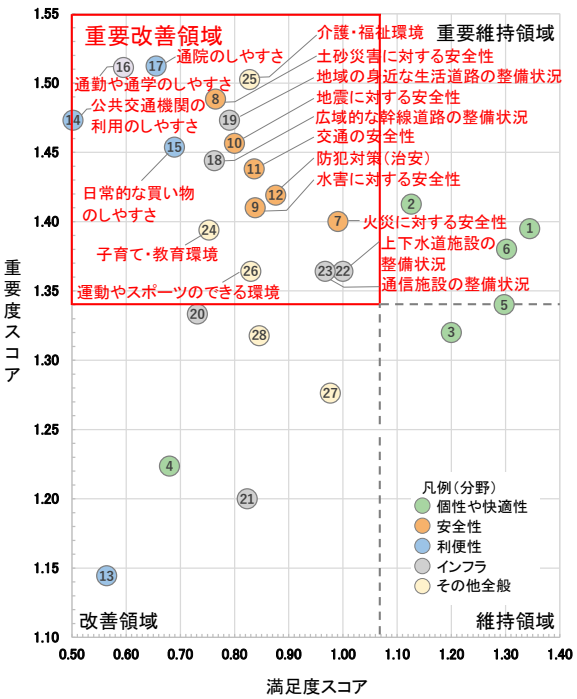
・豊富な森林資源を活かした脱炭素・再生可能エネルギー推進に向けた担い手や体制確保

(2)市民の意向

中山間地域では、「通勤や通学のしやすさ」「通院のしやすさ」「公共交通機関の利用のしやすさ」「介護・福祉環境」「土砂災害に対する安全性」「地域の身近な生活道路の整備状況」など、多くの項目で、重要度が高い一方で満足度が低い傾向がみられます。また、「日常的な買い物のしやすさ」「子育て教育環境」「運動やスポーツのできる環境」「防犯対策（治安）」「水害に対する安全性」など、生活利便性や安全性に関する幅広い項目についても、改善の必要性が高い傾向がみられ、日常生活を支える基盤や生活サービスの確保が求められています。

※28項目について満足度・重要度（５段階評価）の回答を点数化し、市全体平均を基準線として４領域に区分。「重要改善領域」は、重要度が高く満足度が低い領域で、より改善の必要性が高い項目として位置づけられる。

■　アンケートにみる住民の認識・意向



（資料：長野市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査（令和７年））

10－３　地域の目指す姿

(1)地域のまちづくりの基本方針

中山間地域は、戸隠連峰や飯縄山などの豊かな自然に囲まれ、戸隠神社の門前町をはじめ独自の歴史・文化を有する地域で、人口減少や高齢化が進む中でも、この豊かな地域資源を活かした持続可能な地域づくりを進めます。

●生活を支える基盤とサービスの維持・確保

各地区の支所周辺を生活中心地として、公共交通の維持・確保、医療・福祉・商業などの生活サービスの確保を進め、住民が安心して暮らし続けられる生活環境を維持します。

●豊かな自然と歴史・文化を活かした交流人口の拡大

戸隠神社や奥裾花自然園などの観光資源、戸隠・飯綱高原のレクリエーション施設を活用し、四季を通じた観光･交流機能の強化を図り、地域経済の活性化と魅力向上を目指します。

●地域資源の保全と持続可能な地域経営

農林業の担い手確保と遊休農地対策、空き家の活用など、地域コミュニティと協働しながら持続可能な地域経営を推進し、豊かな自然環境と農村景観を次世代に継承します。

(2)都市づくりの目標別の方向性

目標１　豊かな自然と歴史文化を大切にする地域づくり

・戸隠連峰・飯縄山・奥裾花自然園等の豊かな自然環境と生物多様性の保全
・農地の保全と荒廃農地対策の推進、棚田や農村景観、伝統的集落景観の保全と継承
・信州新町化石博物館、鬼無里ふるさと資料館等の文化施設の活用促進
・戸隠高原・飯綱高原のレクリエーション施設の機能強化と四季を通じた観光振興

目標２　暮らしやすい生活基盤と経済活動を支える地域づくり

・各地区の支所を中心とした生活拠点機能の維持・強化
・路線バス等の公共交通の維持・確保と住民の移動手段の確保　（照会）
・冬季における道路交通の確保と除雪体制の維持
・農産物直売所や温泉施設等の交流拠点の活用による地域経済の活性化
・空き家の活用促進と移住・定住の受け入れ環境整備

目標３　誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

・急傾斜地や土砂災害警戒区域等における土砂災害対策、犀川等の河川災害対策の推進
・高齢者や子育て世代を支える医療・介護・福祉環境の充実
・豊富な森林資源を活用した脱炭素・再生可能エネルギーの推進

10－4　分野別の整備方針

土地利用の方針

・各地区の支所周辺における生活拠点機能（行政、医療、福祉、商業等）の維持・強化
・優良農地の保全と農業従事者の高齢化・後継者不足に対応した荒廃農地等の対策の推進
・森林の適切な管理と林業の担い手確保、森林資源の有効活用の促進
・テレワーク拠点や交流施設等、空き家の活用促進と移住・定住希望者への情報提供・支援体制の整備
・飯綱都市計画区域における高原住宅ゾーンとしての良好な環境の維持

交通体系・経済活動の方針

交通体系

・路線バスの維持とデマンド交通等の多様な移動手段の確保と交通弱者の移動への対応
・市の中心部の市街地と各地区を結ぶ地域間連携軸の機能強化
・冬季における道路交通の確保と計画的な除雪体制の維持
・集落間を結ぶ生活道路の適切な維持管理と安全性の確保

経済活動

・戸隠神社をはじめとする歴史・文化資源や、スキー場・キャンプ場などの様々なレクリエーション施設を活かした観光振興と交流人口の増加によるにぎわいの創出
・グラウンド整備やプロスポーツチームの合宿誘致などをはじめとした、スポーツを活用した新たな需要の創出と地域ブランドの磨き上げ
・信州新町美術館・化石博物館、鬼無里ふるさと資料館等の文化施設の活用促進
・農産物直売所や温泉施設等の交流拠点の機能充実と地域経済の活性化

自然環境・緑・景観の方針

自然環境・緑の保全

・奥裾花自然園等の貴重な自然環境と生物多様性の確保
・長野市自然環境保全条例等の各種規制の適切な運用による自然環境の保全
・森林の適切な管理による水源涵養機能・土砂災害防止機能の維持

景観の保全・育成

・戸隠連峰・飯縄山を背景とした山岳景観の保全
・棚田や農村景観、伝統的集落景観の保全と継承
・戸隠神社周辺や門前町の歴史的景観の保全と活用

防災・脱炭素の方針

防災・減災

・急傾斜地崩壊危険箇所や土砂災害警戒区域等における警戒避難体制の整備と対策の推進

・犀川・裾花川等の河川改修促進と洪水対策の強化

・老朽化したインフラの計画的な更新と老朽化した危険な空き家の除却促進　（照会）

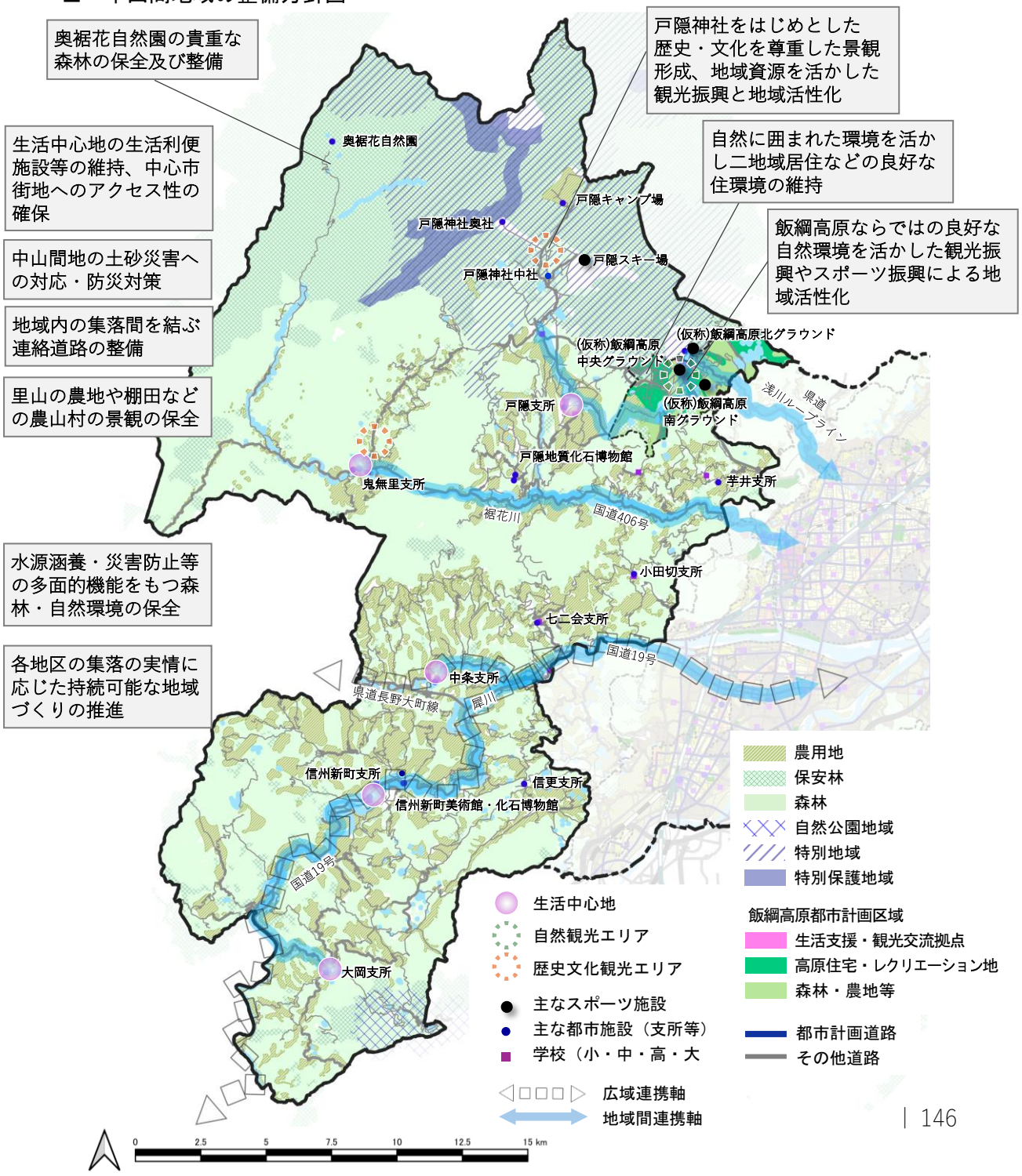
脱炭素・省エネルギー

・豊富な森林資源を活用した木質バイオマスエネルギーの利用促進

・公共交通の維持・確保による低炭素型の移動環境の形成　（照会）

・森林の適切な管理による水源涵養・CO2吸収機能の強化

■　中山間地域の整備方針図



第３編
都市計画マスタープランの実現に向けて

第１章　実現化方策
第２章　実現化に向けた考え方

（部会、照会）

第１章　実現化方策

本マスタープランに描いた長野市を実現するために実施する方策を示します。

既に施策や事業に着手していますが、今後も継続して実施する必要のある、又は、これまで以上に重点的に実施する必要のある取組を「継続」と位置づけます。これから新しく着手する取組を「着手」と位置づけ、おおむねの着手時期を示します。

■土地利用

「継続」について　○：今後も継続して実施する取組　◎：これまで以上に重点的に実施する取組

主な施策・事業	継続	着手時期	
		短期 5年以内	中期 10年以内
区域区分（線引き）による計画的な規制・誘導	◎		
立地適正化計画の居住誘導区域内へ生活利便施設等の諸機能や居住を誘導	◎		
立地適正化計画に位置づけた都市機能の立地誘導	◎		
市街地再開発事業や優良建築物等整備事業などによる既存市街地の更新	○		
中心市街地活性化基本計画の施策の実施	◎		
大規模集客施設の立地を制限する特別用途地区による規制	○		
街並み誘導型の地区計画の導入や都市計画提案制度等、都市計画諸制度の活用			○
地区計画や高度地区等の活用による地区特性に応じた建物誘導		○	
まちなかでの良好な住宅ストックの建設に対する支援や、空きビルなどの既存ストックの住宅への転用支援策の検討	○		
民間住宅を借り上げた公営住宅などによるまちなか居住の推進		○	
大規模住宅団地における日用品販売店の立地を可能とする用途規制の見直し			○
空き家バンクの充実による活用促進や住み替えへの助成制度の実施	◎		
空き家リノベーションなど賑わいの創出につながる既存ストックの活用	○		
低・未利用地や公的不動産を有効に活用した生活サービス施設等の立地誘導		○	
地域の街づくりのルール（地区計画等）の策定など、住民主体のまちづくり活動への支援の推進	○		
田園集落や中山間地域での生活やコミュニティを維持するため「小さな拠点」の取組みの検討		○	
遊休農地の活用等を通じて優良農地を保全するとともに、体験型農業や6次産業化など農業の振興に必要な施設の立地が可能な土地利用の検討	○		

（部会、照会）

主な施策・事業	継続	着手時期	
		短期 5 年以内	中期 10 年以内
都市農地の活用に向けた仕組みづくりの検討			○
既存の工業用地の拡張整備や新たな産業用地の確保		○	
地域の活動拠点となる支所・公民館・交流センター等の計画的な更新・改修		○	
ごみ処理施設や最終処分場等の適正配置の検討・計画的な整備、老朽化施設の更新・改修	○		
下水道施設の適正な管理と計画的な改築更新	◎		
公共下水道や合併処理浄化槽の整備	○		

■交通体系

「継続」について　○：今後も継続して実施する取組　◎：これまで以上に重点的に実施する取組

主な施策・事業	継続	着手時期	
		短期 5 年以内	長期 10 年以内
都市計画道路の整備 （長野市の事業路線：川中島幹線、山王小柴見線、七瀬居町線、北部幹線、返目浅川線、三輪幹線、松岡大豆島線、県庁小柴見線、新町返目線、豊野北線）	◎	○	
自転車道ネットワークの整備	◎		
コミュニティサイクルやレンタサイクルの導入の検討	○		
生活道路の拡幅改良等の整備 （歩道整備、狭あい道路の解消等も含む）	◎		
都市計画道路の見直しや優先整備路線の検討			○
都市計画道路の路線の変更（ルートや計画幅員の変更）			○
善光寺表参道を中心としたウォーカブルなまちづくりの推進	◎		
中心市街地における自動運転等新たなモビリティの導入の検討		○	
都市構造を踏まえた持続可能な公共交通網の再構築	◎		
中山間地域における AI デマンド交通の推進	◎		
地域内循環コミュニティバスの最適化	○		
公共交通の利用環境の向上 （乗り継ぎ拠点の高機能化、MaaS、デジタル技術の活用、施設のユニバーサルデザイン化、リアルタイムのバス運行状況の提供等）	◎		

（部会、
照会）

主な施策・事業	継続	着手時期	
		短期 5 年以内	長期 10 年以内
鉄道駅周辺の駐輪場の整備・改修	○		
パーク・アンド・ライドの推進（駐車場・駐輪場の整備も含む）		○	
駅前広場等の整備			○

■自然環境保全とまちなかの緑

「継続」について
○：今後も継続して実施する取組　◎：これまで以上に重点的に実施する取組

主な施策・事業	継続	着手時期	
		短期 5 年以内	長期 10 年以内
緑の拠点を結ぶ帯状の幹線道路の沿道緑化により緑のネットワークの形成	◎		
河川本来の生物多様性や自然景観に配慮した河川整備（千曲川や犀川、裾花川等）	○		
長野市緑を豊かにする計画に基づく総合的な公園、街路樹、緑道、緑地整備の促進		○	
生産緑地制度の活用など都市農地の活用に向けた検討	○		
市街地における都市計画公園の整備（弁天公園等）		○	
既設公園の再整備（城山公園、川中島古戦場史跡公園）		○	
茶臼山動物園の再整備	◎		
茶臼山自然植物園（植物園・恐竜公園）の再整備			○
主に市街地における中小河川・用水の開渠化などの水辺環境の保全・復元と生態系の豊かな親水空間の整備			○
市民参加や地域住民との連携による公園や街路樹などの維持管理の推進	○		
保存樹木、樹林の指定や管理補助金の交付、緑育（緑に関する普及啓発や人材育成事業等を通じて緑と親しむ文化や人を育む取組）の推進	○		
公共施設や事業所等の敷地緑化の促進	◎		
中心市街地におけるグリーンインフラの推進		○	
貴重な自然を残す重要な山林の保全 （国立公園、県立公園、風致地区等の指定）	○		

（部会、照会）

■景観づくり

「継続」について　○：今後も継続して実施する取組　◎：これまで以上に重点的に実施する取組

主な施策・事業	継続	着手時期	
		短期 5 年以内	長期 10 年以内
景観計画に基づく良好な景観の形成 （戸隠地区、鬼無里地区、信州新町久米路地区、中条御山里地区等）	◎		
千曲川、犀川、裾花川等での国や県との連携・協力による親しみが持てる水辺景観の創出	○		
歴史的風致維持向上計画による建造物の保存修理、道路の美装化・無電柱化の推進	◎		
戸隠地区の重要伝統的建造物群保存地区における歴史的景観の形成の推進	◎		
松代地区における伝統環境保存事業による歴史的景観の保全	○		
景観重要建築物や景観重要樹木の指定の推進	○		
景観賞や景観賞表彰作品めぐりの実施と景観形成市民団体の育成	○		
中高層建築物の建築に係る紛争の防止及び調整	○		
特別地区（屋外広告物の規制強化または緩和地区）による誘導	○		
地域の景観特性に応じた景観形成及び整備基準に基づく規制誘導	○		
景観地区などの指定と地区計画や高度地区による高さ規制などの検討（善光寺周辺、戸隠、松代など）		○	
街なみ環境整備事業による道路空間の高質化	○		
善光寺周辺市道の電線類地中化・道路美装化整備			○
善光寺周辺地域での伝統的建造物群保存地区の指定の検討		○	
都市計画道路の無電柱化（山王小柴見線、七瀬居町線、東通り）	◎		
景観地区、景観協定、地区計画、建築協定等の活用による地域特性に応じた景観の保全・形成	○		
飯綱高原における地区計画や長野市自然環境保地域に基づく景観や自然環境の保全・形成	◎		

（部会）

■都市防災

「継続」について　○：今後も継続して実施する取組　◎：これまで以上に重点的に実施する取組

主な施策・事業	継続	着手時期	
		短期 5 年以内	長期 10 年以内
住宅や多数の人が利用する建築物の耐震化の推進	◎		
緊急輸送路に指定されている道路の優先的な整備		○	
緊急輸送道路など災害時に通行を確保すべき道路沿いの建築物の耐震化の促進	◎		
街路事業等による広幅員道路の確保による安全な避難路の整備	○		
延焼遮断帯としての幹線道路や防災緑地等の整備	○		
広域避難場所及び避難場所の適正な追加指定・整備（公園の防災機能の強化）	○		
上下水道等のライフラインの耐震化や計画的な更新	◎		
適切な森林の管理による治山・治水機能の維持	○		
防災対策施設の適切な維持管理と整備	○		
排水路や中小河川の整備・改修の推進と雨水調整池やポンプ場の整備	○		
災害危険区域や土砂災害特別計画区域等における建築の抑制	○		
災害ハザードがあるエリアにおける開発行為の見直し検討		○	
多様な主体が連携した信濃川水系の流域治水対策の推進	◎		
流域治水を含めた計画的な河川整備の推進 （千曲川、犀川、岡田川等）	◎		
避難訓練の実施やハザードマップの活用等による市民の防災意識の醸成	◎		
備蓄倉庫等の整備、防災無線の強化と無線通信に関する関係者や近隣市町村との連携の強化	○		
地域の安心・安全を支える重要な基盤である防犯灯の維持管理に対する支援	○		
立地適正化計画と連携した居住誘導施策の検討		○	

（部会）

■経済活動等　「継続」について　○：今後も継続して実施する取組　◎：これまで以上に重点的に実施する取組

主な施策・事業	継続	着手時期	
		短期 5 年以内	長期 10 年以内
既存の工業用地の拡張整備や新たな産業用地の確保（再掲）		○	
中心市街地の空きビル・遊休不動産の事業所等への活用	◎		
市街地におけるスタートアップ企業の支援	○		
バスターミナル機能の配置や在り方の検討			○
地域の特色を活かした農作物栽培の振興	○		
遊休農地の活用等を通じて優良農地を保全するとともに、体験型農業や 6 次産業化など農業の振興に必要な施設の立地が可能な土地利用の検討（再掲）	○		
既設のスポーツ施設の改修・高機能化	◎		
スポーツ振興や観光振興と連携したまちづくりの推進	◎		

■脱炭素や省エネルギー　「継続」について　○：今後も継続して実施する取組　◎：これまで以上に重点的に実施する取組

主な施策・事業	継続	着手時期	
		短期 5 年以内	長期 10 年以内
幹線道路の整備による渋滞の緩和	◎		
自転車道ネットワークの整備（再掲）	◎		
公共交通や自転車の利用促進などモビリティ・マネジメントの推進		○	
公共施設・住宅・事業所等の省エネルギー化や ZEB 化の推進	◎		
地域特性に応じた再生可能エネルギーの活用の推進 （太陽光、水力、木質バイオマス等）	○		
中心市街地におけるグリーンインフラの推進（再掲）		○	
中心市街地におけるウォーカブルなまちづくりの推進	◎		

（部会、事務局）

第２章　実現化に向けた考え方

１　効果的な施策の展開

本マスタープランに掲げる将来都市像の実現に向け、市民・事業者・行政が共有すべき考え方や、施策を効果的に推進するための基本的な考え方を示します。

●庁内や関係機関との連携

本マスタープランに掲げる将来都市像を実現するためには、土地利用だけでなく、交通、産業、環境、防災など、様々な分野の庁内の関係部局が連携しながら都市づくりを進めることが重要です。また、道路や河川などの都市基盤は、国や県など多様な主体が整備・管理していることから、関係機関との連携が不可欠です。このため、本マスタープランを共通の将来ビジョンとして共有し、それぞれの役割や専門性を活かしながら、分野横断的かつ一体的に都市づくりを進めます。また、立地適正化計画や地域公共交通計画などの関連計画と連携を図りながら、本マスタープランに掲げる都市づくりの方向性を具体化し、総合的かつ計画的に施策を推進します。

●市民との協働によるまちづくりの推進

本マスタープランを、市民・事業者・地域団体・行政が目指す将来都市像と進むべき方向性を共有するための指針として活用し、それぞれの役割を活かした協働によるまちづくりを進めます。地域におけるエリアビジョンの作成や、空き地・空き家の活用、公共空間の活用、景観形成や緑化活動などを進めるにあたり、本マスタープランを共通のよりどころとして、地域の実情や様々な意見を踏まえながら、具体的な取組内容を検討し、実施につなげます。

また、立地適正化計画に位置づけた、都市拠点の在り方、災害リスクを踏まえた居住誘導、低未利用地の活用によるまちの新陳代謝の促進などを検討する際にも、本マスタープランの考え方を市民や事業者などと共有し、施策の目的や方向性について理解を深めながら、具現化に向けて進めていきます。

●民間・大学等との連携によるまちづくりの推進

複雑化・多様化する地域課題に対応するためには、行政だけでなく、民間企業や大学、地域団体など、多様な主体がそれぞれの強みや専門性を活かしながら連携してまちづくりを進めることが重要です。公共施設や都市公園などにおける民間活力の活用をはじめ、産学官連携による調査・研究や実証事業、地域課題の解決に向けた取組などを推進します。また、対話や共創を通じて新たなアイデアや技術を取り入れ、多様な主体とともに持続可能な都市づくりを進めます。

（部会、事務局）

●各種の都市計画制度の有効活用

区域区分制度や開発許可制度、用途地域、地区計画などの都市計画制度を効果的に活用し、計画的な土地利用を推進します。また、人口減少や社会情勢の変化、地域ごとの特性を踏まえながら、必要に応じて都市計画制度の見直しを行い、柔軟に対応します。

さらに、立地適正化計画などの関連計画と連携し、都市機能や居住の適切な誘導を図るとともに、都市計画提案制度などを活用し、市民や事業者、地域団体など多様な主体からの提案を取り入れながら、地域の実情に応じた都市づくりを進めます。

●地域課題を解決する手段としての先進技術の活用

中心市街地から中山間地域まで多様な地域特性を持つ長野市の実情に応じて、地域課題を解決する手段として、DXやAIをはじめとする新たな技術の活用を柔軟に進めます。人口減少や少子高齢化に伴い、限られた人員や財源の中で質の高い行政サービスや都市施設の維持・管理が求められることから、データやデジタル技術を活用することで、効率的な施策・事業を推進し、市民の利便性向上や持続可能な都市経営を目指します。

●将来を見据えた戦略的な投資

人口減少や少子高齢化の進行により、限られた財源の中で効率的かつ効果的な都市づくりが求められています。中心市街地から中山間地域まで多様な地域特性を有する長野市では、地域ごとの役割や特性を踏まえながら、必要な都市機能の維持・充実につながる投資を進めます。また、都市施設の整備や更新にあたっては、既存ストックを最大限活用するとともに、必要性や重要性、事業効果などを総合的に評価し、優先度の高い事業へ重点的・計画的に投資します。さらに、長野市の地域資源を活かした産業や観光の振興など、地域経済の活性化や地域で稼ぐ力の向上につながる視点も踏まえ、投資によって都市の魅力や地域経済を高め、その成果を次の都市づくりへ還元する好循環を目指します。

（部会）

2　計画の進行管理と見直し

●計画的な進行管理

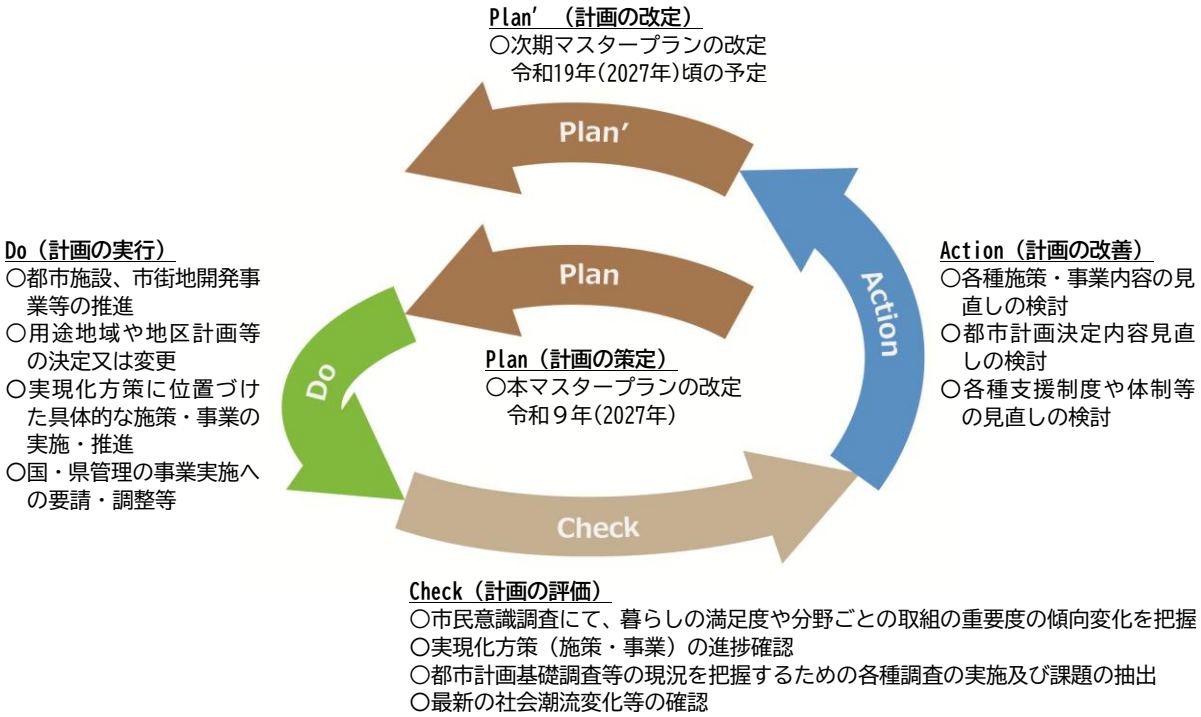
本マスタープランは、市の最上位計画である総合計画に基づき、都市計画の基本的な方針を示す計画です。本マスタープランに掲げる都市の将来像の実現に向けて、立地適正化計画や地域公共交通計画などの関連計画との連携を図りながら、施策や事業を推進します。

本マスタープランの進行管理にあたっては、計画の性質に応じた役割分担を行います。居住誘導区域人口や拠点性の把握など、都市構造の形成に関する具体的な進捗管理は、本マスタープランのアクションプランである立地適正化計画において実施します。一方で、本マスタープランでは、立地適正化計画などの評価結果を踏まえながら、都市づくり全体の方向性が適切であるか確認します。

具体的には、市民の暮らしの視点から都市づくりの成果を確認するため、令和７年度に実施した市民意識調査のアンケート結果を活用します。次期改定時には、今回と同様の設問により、暮らしの満足度や分野ごとの取組の重要度の変化を把握し、必要に応じて年齢、居住地などの属性別に分析することで、今後重点的に対応すべき課題を把握します。

さらに、第３編第１章の実現化方策に位置づけた各施策・事業について、進捗状況を把握します。市民意識調査による暮らしの満足度などの変化の把握と、各施策・事業の実施状況の確認を組み合わせることで、本マスタープランの方向性や施策体系の妥当性を検証し、次回改定につなげます。

■　PDCAサイクルによる進行管理



●計画の見直しの視点

時代の潮流や財政状況、市民のライフスタイルや価値観の変化などに応じて、重点的かつ効果的な投資を行うなど、まちづくりの施策・事業を柔軟に進めていくことが求められています。（事務局）
都市の将来像や都市づくりの骨格となる取組は今後も継承することを基本としますが、次のような視点で見直しを検討します。

市勢情勢に応じた見直し（事務局）

国勢調査や都市計画基礎調査などによる、最新の人口や産業、土地利用、開発状況、進行管理による各種施策の進捗状況など、様々な都市データを整理し、数値データを更新するとともに、将来予測についても見直しを行います。また、今後のまちづくりに関する市民意識の高まりや市民ニーズの変化を踏まえつつ、次のステップを見据えて計画の見直しを行います。

上位計画等の変更に伴う見直し

本マスタープランは、基本的に策定時点での上位計画を踏まえて策定しています。市の総合計画などの上位計画についても、社会・経済情勢の変化に応じて定期的に見直しがされます。上位計画の大幅な見直しによって本マスタープランの内容と不整合が生じた場合には、計画の見直しを行います。

ビックプロジェクト等を勘案した見直し（事務局）

上位計画等の見直しを伴わない場合でも、長野市の重要プロジェクトに伴う事業の実施、建設資材や人件費等の大幅な上昇、気候変動による災害リスクの増大など、現在想定していない状況が生じる可能性もあります。現在見通せないような事象が生じた場合には、必要に応じて、計画の見直しを行います。